

平成27年度埼玉県学办学習状況調査報告書

〔平成27年4月実施〕

～子供たち一人一人のよさを伸ばし、よさを活かす～



平成 27 年 11 月
埼玉県教育委員会



はじめに

本県では、全国学力・学習状況調査が小学校 6 年生と中学校 3 年生で実施されることに鑑みて、これまで小学校 5 年生と中学校 2 年生を対象とした埼玉県小・中学校学習状況調査を実施してまいりました。しかし、この調査では、児童生徒一人一人の学力がどれだけ伸びたのかを把握することができませんでした。

そこで、本年度 4 月に第 1 回目となる埼玉県学力・学習状況調査を実施いたしました。

この調査は、「学習したことがしっかりと身に付いているのか」という今までの調査の視点に「一人一人の学力がどれだけ伸びているのか」という新たな視点を加えた全国で初めての調査です。伸びを把握することについては来年度以降になります。小学校 4 年生から中学校 3 年生まで、児童生徒一人一人の学力を継続して把握してまいります。

本報告書では、調査結果を詳細に分析し、子供たちのよさをさらに伸ばすことと、指導上の課題を解決するための授業の工夫改善のポイントを示しております。併せて、教科に関する調査と質問紙調査との相関等のデータや、調査結果を活用する学校の様子なども記載しております。

これらのデータや記載内容は、調査の対象学年や該当教科はもちろんのこと、全ての学年や教科の指導に活用したり、研修の資料や講話等の話題にしたりするなど多面的に活用できるものです。

さらに、紙幅の都合上御紹介できなかった指導事例や詳細なデータは、県教育委員会ホームページに示しておりますので、こちらについても、ぜひ御覧の上お役立てください。

市町村教育委員会及び各小・中学校におかれましては、この調査から導き出された有効な指導方法などを共有財産とし、一人一人の児童生徒を伸ばすための指導改善に努めていただきますようお願いいたします。

平成 27 年 11 月

埼玉県教育委員会教育長 関根 郁夫

目 次

はじめに

埼玉県学力・学習状況調査グランドデザイン

第1章 調査の概要

1 調査の概要	8
2 学力の経年変化（伸び）を見る調査の設計	10

第2章 学年を通して見た学力の様子

国 語	14
算数・数学	16
英 語	18

第3章 指導改善のポイント

国 語	21
算 数	47
数 学	61
英 語	75
教科などに関する調査データ	84

第4章 質問紙調査の分析

1 「教員との関係」と「自分に対する考え」との相関	86
2 「学級の雰囲気」と「学習意欲」に関する相関	88
3 「学習意欲」と「教科に関する調査」に関する相関	90
4 「家庭での生活習慣」に関する相関	92
5 「家庭での様子」と「自己肯定感」に関する相関	94
分析支援プログラムについて	96

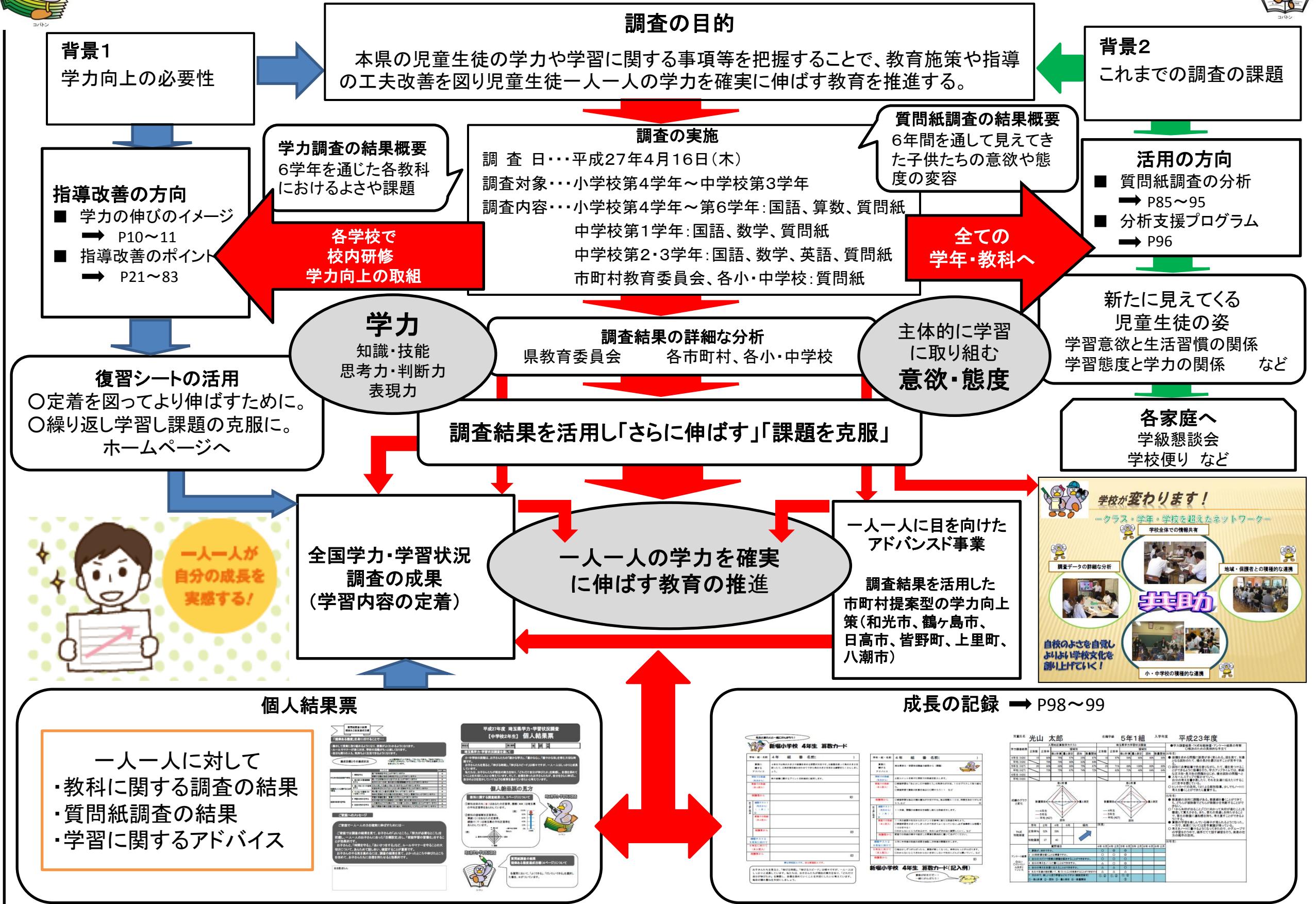
第5章 頑張る学校の紹介

1 新座市立新堀小学校の取組	98
2 毛呂山町立光山小学校の取組	99

「埼玉県学力・学習状況調査」シンボルマーク原画募集入賞作品

入賞原画の紹介及び審査・デザイン協力校の紹介

平成27年度 埼玉県学力・学習状況調査グランドデザイン



背景1
学力向上の必要性

調査の目的
本県の児童生徒の学力や学習に関する事項等を把握することで、教育施策や指導の工夫改善を図り児童生徒一人一人の学力を確実に伸ばす教育を推進する。

背景2
これまでの調査の課題

指導改善の方向
■ 学力の伸びのイメージ → P10~11
■ 指導改善のポイント → P21~83

学力調査の結果概要
6学年を通じた各教科におけるよさや課題

調査の実施
調査日...平成27年4月16日(木)
調査対象...小学校第4学年~中学校第3学年
調査内容...小学校第4学年~第6学年:国語、算数、質問紙
中学校第1学年:国語、数学、質問紙
中学校第2・3学年:国語、数学、英語、質問紙
市町村教育委員会、各小・中学校:質問紙

質問紙調査の結果概要
6年間を通して見えてきた子供たちの意欲や態度の変容

活用の方向
■ 質問紙調査の分析 → P85~95
■ 分析支援プログラム → P96

各学校で校内研修 学力向上の取組

全ての学年・教科へ

学力
知識・技能
思考力・判断力
表現力

調査結果の詳細な分析
県教育委員会 各市町村、各小・中学校

主体的に学習に取り組む意欲・態度

新たに見えてくる児童生徒の姿
学習意欲と生活習慣の関係
学習態度と学力の関係 など

復習シートの活用
○定着を図ってより伸ばすために。
○繰り返し学習し課題の克服に。
ホームページへ

調査結果を活用し「さらに伸ばす」「課題を克服」

各家庭へ
学級懇談会
学校便り など



全国学力・学習状況調査の成果 (学習内容の定着)

一人一人の学力を確実に伸ばす教育の推進

一人一人に目を向けたアドバンスド事業
調査結果を活用した市町村提案型の学力向上策(和光市、鶴ヶ島市、日高市、皆野町、上里町、八潮市)

学校が変わります!
一クラス・学年・学校を超えたネットワーク
学校全体での情報共有

共助

調査データの詳細な分析
地域・保護者との積極的な連携
小・中学校の積極的な連携

自校のよさを自覚し
よりよい学校文化を
創り上げていく!

個人結果票

一人一人に対して
・教科に関する調査の結果
・質問紙調査の結果
・学習に関するアドバイス

成長の記録 → P98~99

第1章

調査の概要

趣旨

本調査のねらいや全体的な様子と本県で捉える「学力」や「学力の伸び」についてのイメージを示しました。

1 調査の概要

(1) 調査の目的

本県の児童生徒の学力や学習に関する事項等を把握することで、教育施策や指導の工夫改善を図り、児童生徒一人一人の学力を確実に伸ばす教育を推進する。

(2) 調査対象

県内の全公立小・中学校（さいたま市を除く。）

- ・小学校 708校（150, 310人）
- ・中学校 360校（148, 013人）

対象学年	教科	調査実施日
小学校第4学年	国語 算数	平成27年4月16日（木）
小学校第5学年	国語 算数	
小学校第6学年	国語 算数	
中学校第1学年	国語 数学	
中学校第2学年	国語 数学 英語	
中学校第3学年	国語 数学 英語	

(3) 調査内容

各教科について、下記の調査範囲に基づいて作成したペーパーテストにより実施する。
また、学習に対する意識や生活の様子に関する質問紙調査を併せて実施する。

① 教科に関する調査

ア 対象学年

小学校第4学年～中学校第3学年

イ 対象教科及び出題範囲

小学校第4学年～小学校第6学年 … 2教科（国語、算数）

中学校第1学年 … 2教科（国語、数学）

中学校第2、3学年 … 3教科（国語、数学、英語）

「小（中）学校学習指導要領（平成20年告示）」に示された内容で、各学年とも前学年までの学習内容（前学年の学習内容を中心とする。）を範囲とする。

ウ 調査事項

基礎的・基本的な知識・技能をみる問題（知識に関する問題）及び基礎的・基本的な知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等をみる問題（活用に関する問題）

② 児童生徒に対する質問紙調査

ア 対象学年

小学校第4学年～中学校第3学年

イ 調査事項

学習に対する意欲や意識、学習方法、学習環境、生活の諸側面に関する事項

③ 学校及び市町村教育委員会に対する質問紙調査

ア 対象

埼玉県内の公立小・中学校

埼玉県内の市町村教育委員会

イ 調査事項

学校や市町村教育委員会における指導に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況に関する事項

(4) 調査に要する時間

小学校第4学年～小学校第6学年 … 教科に関する調査の調査時間は1教科40分間とする。質問紙調査の調査時間は30分程度とする。

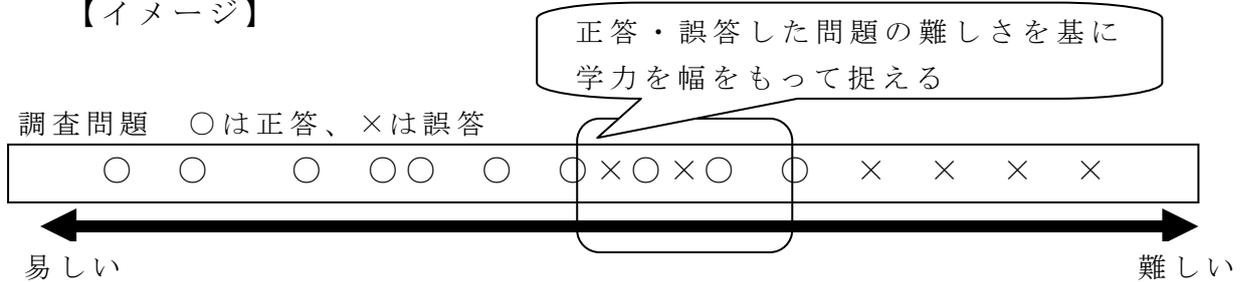
中学校第1学年～中学校第3学年 … 教科に関する調査の調査時間は1教科45分間とする。質問紙調査の調査時間は30分程度とする。

2 学力の経年変化（伸び）を見る調査の設計

(1) 本調査での学力の捉え方

「どのくらい難しい問題に正答できるか」で学力を捉える。

【イメージ】



※学力の捉えについて

問題の難しさは人により異なるので、上の図のように難しい問題に正答し、易しい問題に誤答することもあります。この方式では、正誤のパターンに基づき、学力をある程度の幅を持って捉えていきます。

※「問題の難しさ」で学力を捉える理由

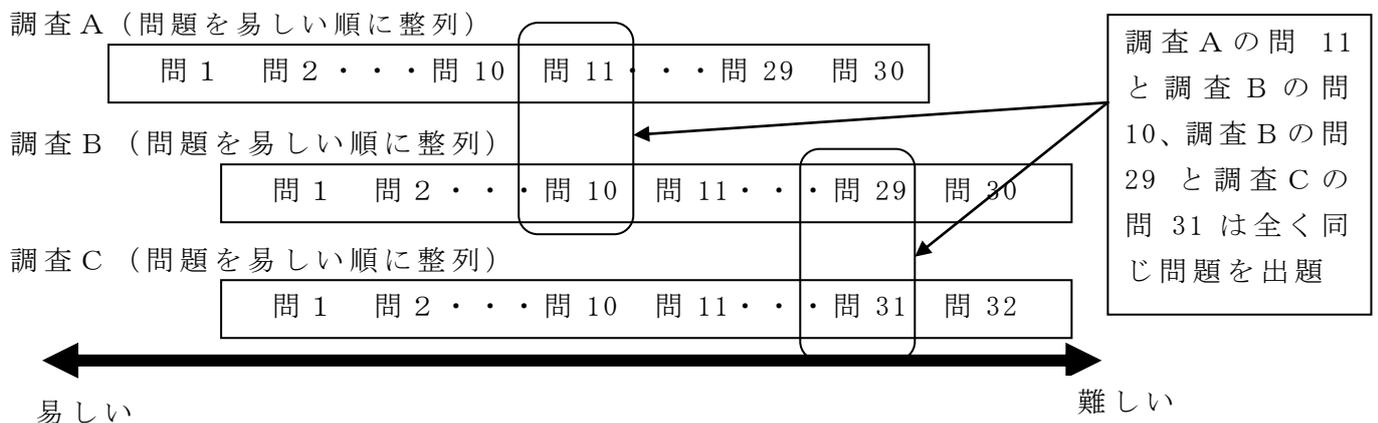
全国学力・学習状況調査など、正答数（正答率）を学力の指標として使う方式は「いくつの問題に正答したか」で学力を捉えています。この場合、単一の調査の中で学力を比べることはできますが、小学校4年生と5年生など出題内容が異なる調査の結果から学力を比較することは難しくなります。

「問題の難しさ」をもとに学力を捉える方式は、視力検査に例えられることがあります。視力を、どれくらい小さなマークが見えるかで測るように、学力を、どれくらい難しい問題に正答できるかで捉えていきます。その際、次の(2)に述べる工夫をして、異なる調査の問題の難しさを比較可能にした上で、学力を捉えます。

(2) 年度や学年で異なる内容の調査の結果を比較するための工夫をする

それぞれの調査に「全く同じ問題」を一部出題し、その問題への解答状況を手掛かりとし、すべての問題について「難しさ」を比較する。

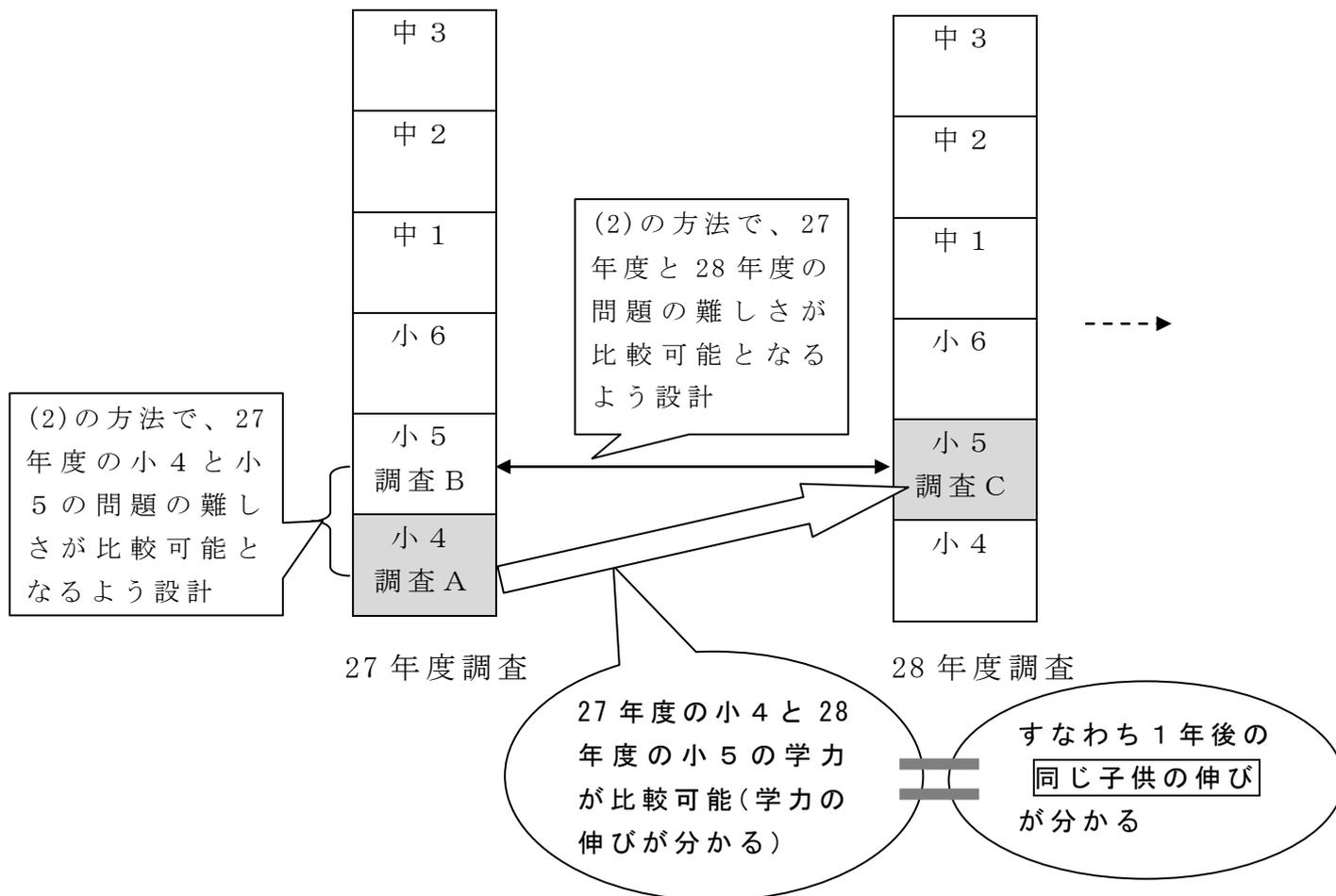
【イメージ】



(3) 埼玉県学力・学習状況調査の設計

(1)、(2)に基づき、本調査では、以下のような調査設計により問題の難しさを比較可能にして、それに応じて学力の経年変化(伸び)を見ることとしている。

【イメージ】



※もう一つの経年変化
同じ学齢集団の伸びの他に、例えば27年度の小学校4年生と28年度小学校4年生のように、学年の学力が年度によってどのように変化したかも、上の方法を使って見ることができます。

関係の皆様へ
具体的な学力の伸びの様子は、28年度調査を経て今年度の調査の結果と比較することで見えてきますが、全体的な設計について本報告書で記載させていただきました。
記載内容は、専門的な厳密さには欠けますが、本調査について、おおよそのイメージを抱いていただければ幸いです。

第2章 学年を通して見た学力の様子

ねらいと見方

ねらい：本調査の結果から見えた学力の様子について、イメージを示しました。

見方：① ☆は、問題の難易度（発達の段階や平均正答率に基づいた）を表します。数が多いほど難しい問題です。

② 他教科や他学年との関連についても示しました。

※ 学力の伸び（経年変化）は平成28年度に分かりますが、イメージとして示しました。

活用方法

○ 校内研修会の資料や復習問題作成の参考として活用いただけます。

国語 6年間を通じて見た児童生徒の状況

「書くこと」の力が学年が上がるとしっかり身に付ける児童生徒の割合が増えている。国語の授業を通じてこうした力を高めると、他教科や生活の中で生きて働く力を育むことができる。

算数・数学、社会、理科の指導に生かす

子どもたちの発達の段階を踏まえた学習の系統性を重視し、学校段階・学年段階ごとに、具体的に身に付けるべき能力を育成し、重点的な指導が行われるようにする。(平成20年1月中央教育審議会答申から)

P24
「目的に応じて理由や事例を書く」
正答率29.6%
難易度☆☆☆

P28
「理由や事例を挙げて書く」
正答率49.1%
難易度☆☆

P32
「資料を参考に、問題の解決方法を書く」
正答率40.2%
難易度☆☆

P36
「根拠を用いて自分の意見を明確に書く」
正答率53.6%
難易度☆☆

P40
「取材をもとに、文章を構成する」
正答率50.6%
難易度☆☆

P44
「根拠を基にして自分の意見を書く」
正答率69.1%
難易度☆

小4

小5

小6

中1

中2

中3

P22
「文の構成を理解する」
正答率40.4%
難易度☆☆

P26
「修飾と被修飾の関係性を正しく理解する」
正答率32.8%
難易度☆☆☆

P30
「慣用句の意味を理解する」
正答率20.1%
難易度☆☆☆

P34
「文の構成を理解する」
正答率15.4%
難易度☆☆☆☆

P38
「登場人物の言動や心情的理由を読み取る」
正答率72.4%
難易度☆

P42
「動詞の活用の理解」
正答率10.6%
難易度☆☆☆☆

低学年での指導へ

有識者からのコメント(埼玉大学准教授 本橋 幸康 氏)

従来の読解重視の問題ではなく、主として学び方や言語活動能力、方法知を問う問題が出題されている。まさに、生きて働く力を測る調査となっている。この点については、全国学力・学習状況調査と同様のコンセプトである。

6年間を通じて文学的文章の理解が優れていることが窺える。これは、言語活動の充実を図りながら、考えを交流するなど、主体的な学習活動を展開している教師の取組の成果であろう。

反面、文法の問題の正答率が低い。GP分析から学力の高い層の児童生徒でも正答率が低いようである。問題文が日頃目にする文章と異なり、(主語・述語・修飾語でしっかり構成されている。物語の文や説明文は、一部省力されていることの方が多い。)人工的であることも一つの要因ではないか。底上げを図る必要があるであろう。

また、小学校4年生の正答率が他学年と比較すると低いのは、問われ方に戸惑っているのではないかと考えられる。授業での教師からの問われ方とテストでの問われ方に乖離があるということである。日頃の授業でも、複数の条件を満たして自分の考えをまとめるなど問い方を工夫する必要があるのではないか。

文の正確な理解につながる、文法的な事項が定着している児童生徒の割合が決して高くない。普段の授業の中で意識して継続的に指導に取り組むことが大切である。

埼玉県の子供たち
「文章の読解力が高い」
背景

「文章を読んで考えたことについて発表する活動を授業に多く取り入れている」

算数・数学 6年間を通じて見た児童生徒の状況

「図形」の力を各学年でしっかりと身に付けている児童生徒が増えている。正確な作図に加え、図形の特徴を論理的に考えさせることを通して、さらに力を伸ばしたい。

小・中・高等学校を通じて、発達の段階に応じ、算数的活動・数学的活動を一層充実させ、基礎的・基本的な知識・技能を確実に身に付け、数学的な思考力・表現力を育て、学ぶ意欲を高めるようにする。(平成20年1月中央教育審議会答申から)

日常事象との関連

社会科との関連

P48
「量の大きさについての感覚を身に付ける」
正答率29.3%
難易度☆☆☆

P52
「図形の定義と性質を理解する」
正答率46.7%
難易度☆☆

P56
「三角形の面積を求める」
正答率68.9%
難易度☆☆

P62
「縮図から実際の面積を求める」
正答率48.9%
難易度☆☆

P66
「作図で利用している図形の性質を捉える」
正答率69.0%
難易度☆☆

P70
「筋道を立てて証明する」
正答率11.8%
難易度☆☆☆☆

小4

小5

小6

中1

中2

中3

P50
「問題文の内容と線分図の整合性を正しく読み取る」
正答率77.0%
難易度☆

P54
「2つの量の関係を□、△などを用いた式で表す」
正答率53.0%
難易度☆☆

P58
「10%引きと20円引きを使って安く買う方法を説明する」
正答率25.2%
難易度☆☆☆

P64
「グラフから必要な情報を読み取る」
正答率28.2%
難易度☆☆☆

P68
「理想化・単純化された事象から、事柄を数学的に捉え、説明する」
正答率16.0%
難易度☆☆☆

P72
「ある直線と平行な一次関数の式を求める」
正答率12.1%
難易度☆☆☆☆

低学年での指導へ

社会科との関連

日常事象との関連

生活との関連

有識者からのコメント(埼玉大学教授 二宮 裕之 氏)

算数・数学の理解の様相を説明する用語に、「用具的理解(問題の解き方が分かる)」と「関係的理解(問題の仕組みが分かる)」がある。当然のことながら、子どもたちの用具的理解を前提とした上で、最終的には『関係的理解』の構築を目指したい。

そのためには「自分の思考を(客観的に)捉えること」が欠かせない。学習者自身が、自分の行っている算数的活動・数学的活動を、意識的・自覚的に『分かる』ことが重要であり、それが誤答を回避するための主要な要件となる。そして既習の内容を、「できる(用具的理解)」から「わかる(関係的理解)」へと促し、更には子どもの認識を、関係的理解に裏づけられる「できる」へと伸ばしていきたい。

今回の調査に見られる誤答の多くは、「自分が何をどう考えているのか」を認識できずに解答しているものと推察できる。それを克服するための方策の一つが、「自分の考えの過程や根拠を自分の言葉で説明する活動」である。

比例や関数についての理解が十分でない児童生徒の割合が高い。普段の授業で、自分の考えの過程や根拠を自分の言葉で説明することが大切である。

埼玉県の子供たち
「図形の特徴を理解する力が高い」
背景
「身近にあるものなどを使いながら、図形の特徴を考えさせる活動が広がりがつつある」

英語 問題への解答状況から見た生徒の様子

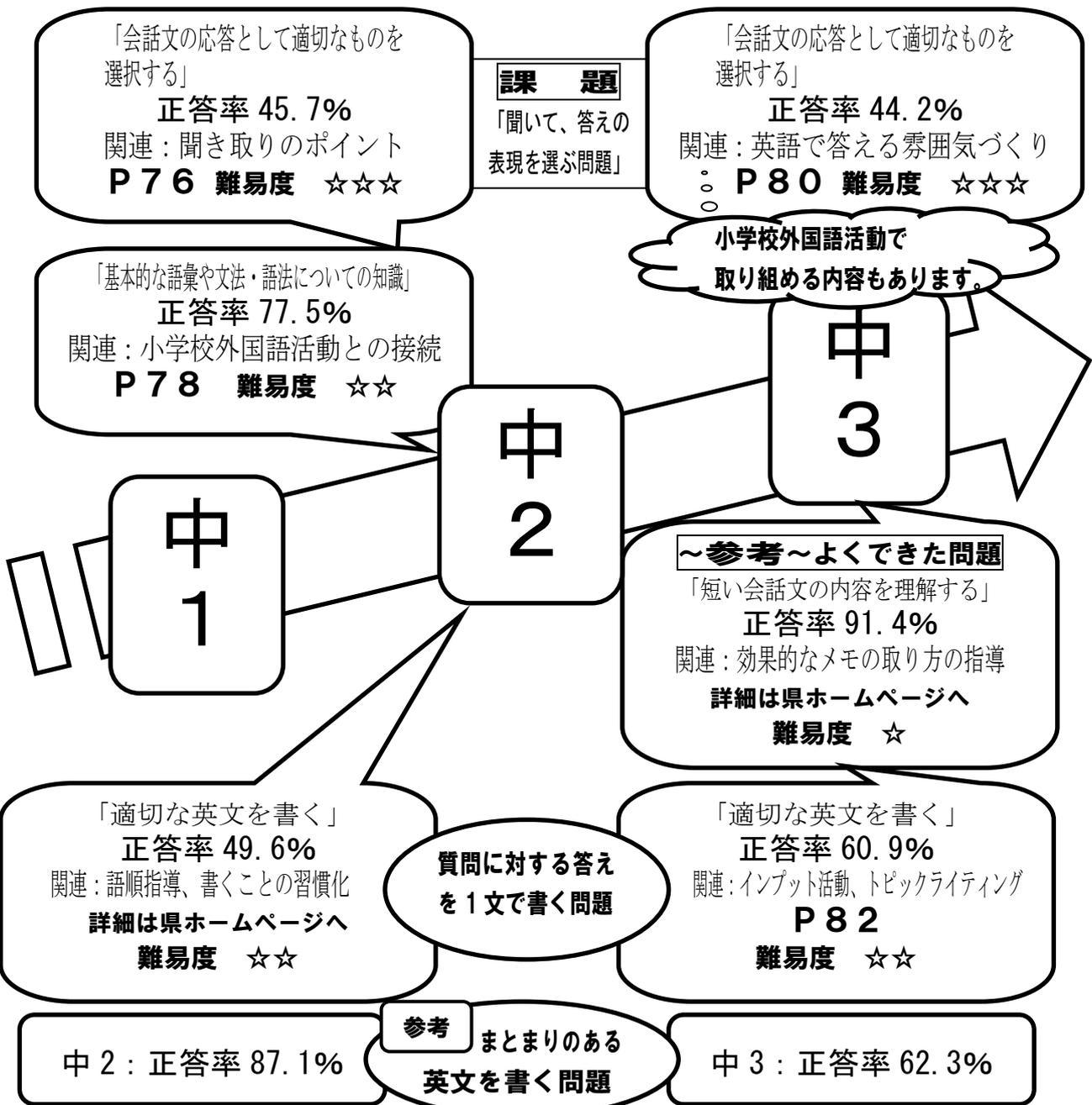
- ・ 子供たちの英語によるやり取りを中心とした授業を展開しましょう。
- ・ 子供たちに基礎的・基本的な知識や技能を確実に身に付けましょう。
- ・ 小学校外国語活動との接続を意識した工夫や授業改善を行きましょう。



英語の調査結果全般について 有識者からのコメント（埼玉大学准教授 及川 賢 氏）

「領域」では中2、中3とも「聞くこと」が他の領域よりも高い値を示しており、概ね満足できる達成状況となっている。一方、「書くこと」の値は中2、中3ともに低めの値を示しているが、これは全国でも同様の状況である。むしろ、まとまった英文を書く問題では、2年生が87.1%、3年生が62.3%の正答率を得ており、決して低くはない。この要因として県立高校の入試でまとまりのある英文を書く問題が長年出題されている点、また、先生方がしっかりご指導をされている点が挙げられるであろう。

その他、気づいた点として、「正しく文を組み立てることができる」問題の正答率が低いが、これは、いわゆる並べ替え問題である。語順が伝達に大きな役割を果たす英語において、この並べ替え問題を指導に取り入れることは、有効に働くであろう。



第3章

指導改善のポイント

ねらいと見方

ねらい：実際に出題した問題をもとに、各学校における指導の参考にさせていただくため、児童生徒の解答状況や学習指導のポイントをまとめたものです。

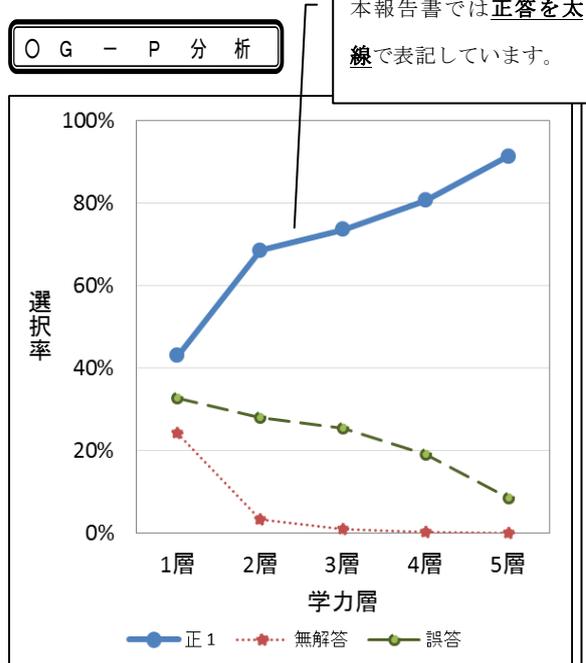
誤答分析やG-P分析で、該当する内容を学んでいる児童生徒が問題をどのように理解しているかの参考にしてください。

G-P分析表の見方

G-P分析表は、正答数に応じて児童生徒を5段階に区分し、段階（学力層）ごとにどのような解答類型を選択しているかをグラフ化したものです。

学力層によって、問題への解答状況が異なることは、児童生徒の理解の様子を反映していると考えられますので、指導の参考として掲載しました。

例えば、右の図では、児童生徒の学力層が1層から5層に上がるにつれて正答（図中の太線「正1」）を選択した割合が高くなり、逆に下位層では誤答や無解答の割合が上位層よりも高いことがわかります。



活用方法

○ 年間指導計画・学習指導案作成や校内研修会の資料として活用いただけます。

玉

語

○ 調査問題

主語

述語

(1)

1
ぼくは

2
夏休みに

3
北海道へ

4
行く。

2

次の文の主語・述語を——線部1～4の中からそれぞれえらびましょう。

中からそれぞれえらびましょう。

○ 調査問題の趣旨・内容

「文の構成を理解する力」が身に付いているかどうかをみる問題

【問題内容】 文節に分けた4つの言葉から主語・述語にあたるものを選択する。

【作成の趣旨】 この問題は、文を構成する上で基本的な要素となる主語、述語の役割を理解しているかどうかをみる問題である。この問題では、主語と修飾語を、文中の意味や役割を考えながら適切に選別する力が求められる。

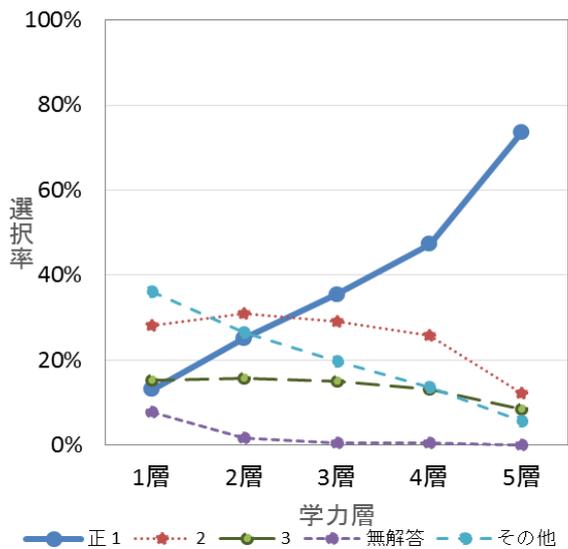
こうした力は今後、小学校高学年から中学校での国語の学習の中で、「読むこと」の学習において文脈を的確に読み取る力や、「書くこと」及び「話すこと・聞くこと」の学習において伝えたいことを明確に書き表したり伝え合ったりする力など、全ての領域の国語力向上へと結びついていくことになる。

○ 誤答分析

出題のねらい	解答類型	正答①	2	3	無解答	その他
主語・述語を選択することができる		40.4%	24.8%	13.3%	1.9%	19.6%

- 主語（傍線1「ぼくは」）・述語（傍線4「行く」）をともに正しく選び出せば正答である。
- 主語のみ正答している解答（2）、述語のみ正答している解答（3）はそれぞれもう一方に、修飾語に当たる傍線3「北海道へ」を選んでいる誤答が多い。また、約2割の児童が主語と述語を反対に解答している（4）。
- 主語、述語、修飾語という用語の意味上の理解や、それぞれの文法上の役割について、十分な理解に至っていないことが読み取れる。
- 第5学年で出題された類似問題（修飾語の働きについての理解を見る問題）、及び中学校第1学年で出題された文中の主語を書き抜く問題においても、同様に正答率の低さが見られた。指導にあたっては、前年度までの既習事項及び次年度以降への繋がりを的確に把握し、系統性を意識した取組が求められる。

○ G - P 分析



- 全体の正答率は40%程度と決して高いとは言えない結果となった。特に正答のグラフからは、3～4層に該当する中位の児童の中にも定着の曖昧な児童が半数以上存在することが読み取れる。これらの点から、主語と述語及び修飾語の役割について、学習指導にさらなる工夫改善を図り、学習集団全体への着実な理解と定着を目指すことが求められる。
- 類型2（主語のみ正答）のグラフに着目すると、5層の誤答率が、1～4層のそれに比べて大きく減少している。一方、類型3（述語のみ正答）のグラフに注目してみると、誤答が1～5層にほぼ同率の割合で存在している。このことから、全体的な傾向として、児童が修飾語と述語との区別比べ、主語と修飾語の区別に、より難解さを感じていることがわかる。

○ 指導上の改善ポイント

- 児童は、第1学年の「だれが・どうする」の学習に始まり、第2学年までに主語、述語の概念を学習する。しかし、このような文法事項は総じて、直接的な指導時数の少ない領域であり、単元の学習のみでは十分な定着が難しいこともある。一方、文章の構成要素として常に存在することから、全ての単元の中で折に触れ意図的、継続的に指導が可能な内容ともいえる。つまり、文章を読む活動の中で主述に注目させる発問を意図的に組む、文章を書く活動の中で文を推敲する視点として主述のつながりを意識させるなど多様な指導が可能となるということである。
- 日常の学校生活の中で、「先生、えんぴつ（が落ちていました）。」など、主述の伴わない会話が成立してしまうことが多くある。さらに広く目を向けると、「で、～」などの表現で文を区切らずにだらだらとつないで話したり書いたりする様子や、助詞のない会話、呼応のおかしな会話などが社会で一般化しつつある。正しい日本語表現の使い手を育成する高い意識を、教師が日ごろからもつよう心がけ、意味の理解できる会話であっても丁寧な修正を促しながら、正しい使い方を児童に習慣付けていくことが大切である。

主語と述語のつながりを実践的に理解させる指導

○「主語カード」「述語カード」を作成し利用する活動例

① 2色のカード大の用紙を用意する。

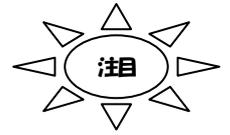
片方には主語（だれが、何が）、もう片方には述語（どうする、どんなだ、何だ）にあてはまる言葉を、それぞれ考えて児童に書かせる。その際、修飾語との混同が見られる児童については声を掛け、修正を促す。

② カードを集めてシャッフルした後、順に1枚ずつ引いて、「主語→述語」の順に読み上げ、組み合わせを楽しむ。

③ 「だれ（何）が」→「どうする（どんなだ、何だ）」という文の組み合わせに多く触れ、体感させる。

《正しいカードの例》		話の「主役」は誰かな？	《誤ったカードの例》		「北海道へ」は、行き先を詳しく知らせる役割をする言葉だね。
主語	述語		主語	述語	
わたしは、	食べた。	「夏休みに」は、いつのことが分かるように、詳しくする役割をしているね。	ぼくは夏休みに	北海道へ行った。	ここがポイント！ 第2学年など「修飾語」が未習の段階で行う際は、「文を詳しくする言葉」など、別の呼び方で表現し、児童が主語・述語と明確に分けて考えられるようにする。

○ 調 査 問 題



※関連する問題
平成25年度全国学力・
学習状況調査
小学校国語B 3三

13

あやかさんは、調べたものをまとめて発表する学習に取り組んでいます。次のグラフは、あやかさんがクラスでとった

「アンケートのけっか」です。このグラフを見て、あとの問いに答えましょう。

(3) あなたが好きなきゅう食のメニューはなんですか。あなたの

好きなメニューと、そのメニューが好きな理由を、次の〈注意〉をよく読んで、書きましょう。

〈注意〉 1 二段落で、三行以上、五行以内で書くこと。

2 一段落目には、あなたが好きなきゅう食のメニューを書くこと。あやかさんの調べた(好きなきゅう食の

メニュー)の中にないメニューを書いてもらいません。

3 二段落目には、あなたがそのメニューを好きな理由を書くこと。

○ 調査問題の趣旨・内容

「目的に応じて理由や事例を挙げて書く力」が身に付いているかどうかをみる問題

【問題内容】 話題について自分の考えとその理由を二段落構成で書く。

【作成の趣旨】 この問題は、自分の考えなど、書こうとすることの中心を明確にし、目的や必要に応じて理由や事例を挙げて書く力が付いているかをみる問題である。

一段落目には話題についての自分の考え、二段落目に自分の考えの理由を書くという二段落構成で記述できるかがポイントとなる。

○ 誤 答 分 析

出題のねらい	①正答	2 二段落構成でない	3 行数等の条件不足	4 理由の記載不足	無解答	その他
目的に応じて理由を挙げながら自分の考えを明確に書く。	29.6%	20.9%	1.5%	0.9%	37.0%	10.1%

○ 正答率は29.6%、無解答率は37.0%と、無解答率が正答率を上回る結果であった。

○ 誤答の傾向として次のような傾向がみられる。

(誤答2) 二段落構成という条件を満たしていないもの。

(誤答4) 一段落目に好きな給食のメニューを書き、二段落目に好きな理由を書くという条件を満たしていないもの。

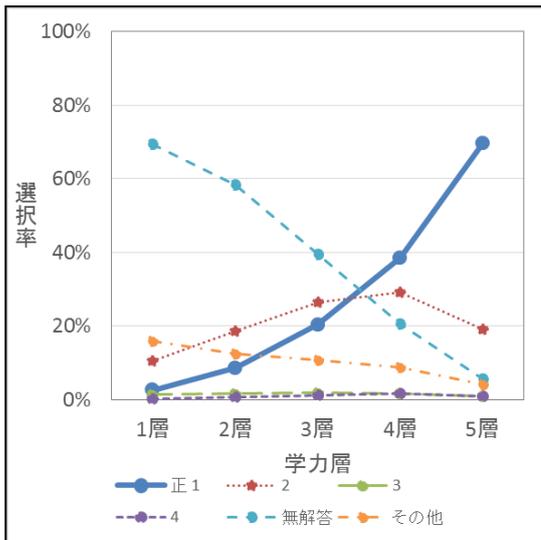
【例】(一段落目) わたしは、とりのからあげが好きです。

(二段落目) なぜなら、とりのからあげがとても好きだからです。

(誤答3) ・3行以上、5行以内という条件を満たしていないもの。

・好きな給食のメニューと好きな理由の段落が逆に書かれているもの。

O G - P 分析



- 下位層から中位層については無解答率が正答率を上回っている。
- 1層から3層では、無解答でない児童の約半数が2段落構成で書くという条件を満たしていない。また、4～5層にも2段落構成で書くという条件を満たしていない児童が、一定程度見られる。
これは、学習時に段落を意識して文章を書くという指導が十分でなかったことが原因であると考えられる。

○ 指導上の改善ポイント

1 目的に応じて理由や事例を挙げて書く力を身に付けるためのポイント

低学年では、「始め—中—終わり」などの構成を意識しながら、経験したことを報告する文章や身近な事物を簡単に説明する文章を書くという活動を通して、「自分の考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること」を学習してきている。中学年では、自分の考えが明確になるように文章を構成するために、「具体的な事柄と抽象的な事柄」「結論とその理由や根拠」など、段落の役割や段落相互の関係を意識しながら文章を書くことで、自分の考えを明確に伝える文章を書く力を伸ばしていく。

そこで、「B書くこと」の指導事項「ウ 書こうとすることの中心を明確にし、目的や必要に応じて理由や事例を挙げて書くこと。」と「C読むこと」の指導事項「イ 目的に応じて、中心となる語や文をとらえて段落相互の関係や事実と意見との関係を考え、文章を読むこと。」を関連付けて指導することにより、自分の考えを明確に伝える文章を書く力の一層効果的な育成を図る。

ここがポイント！

指導事例 「○○について調べ報告する文章を書く」

① 導入

- ・学習の見通しをもつ。
- ・関連する説明的な文章の教材文をもとに、「○○についての報告文を書く」という学習課題を設定する。
- ・関連図書の紹介

② 展開

- ・関連する説明的な文章の教材文を読む。
- ・並行読書をしながら、自分の興味のある情報を集める。

③ 発展

- ・疑問に思っ調べてきたことについて報告する文章を書く。
- ・本や図鑑などを読んで集めてきた書くための材料を整理する。
- ・集めてきた情報をもとに、報告文の構成を考える。

☆自分の伝えたいことが明確に伝わるように、理由や事例を挙げながら報告文を書く。

《教材文を読むポイント》

- ・教材文の内容で興味をもったこと、さらに調べてみたいことは何か。
→課題を明確にし、学習意欲を高める。
- ・筆者の考えを明確にするために、理由や根拠、事例などをどのように書いているか。
→筆者の考えと用いられている事例とを関係付けて読むことで、自分の報告文に取り入れたい工夫を見つけられるように読む。

- ・展開部での学習内容をふまえて、報告文の構成、記述、推敲、交流に関する指導をする。

- ・自分の伝えたいことを明確に記述している、理由や事例が効果的であるかという観点から文章を推敲する。
- ・推敲前後の文章を比較させ、整った文章になることを実感させる。

2 国語の授業に限らず「書く活動」を多くの場面に取り入れる。

○ 調 査 問 題

- 3 シュートを
4 練習した
- 1 わたしは
2 サッカーの

わたしは 校庭で サッカーの シュートを 練習した。

4

次の文の——線部がくわしくしている言葉を、
あとの1～4の中から一つ選びましょう。

※関連する問題
平成25年度
全国学力・学習状況調査
中学校国語A 8六



○ 調査問題の趣旨・内容

修飾と被修飾の関係を正しく理解する力が身に付いているかどうかをみる問題。

【問題内容】 5つの言葉の中から被修飾語を選択する。

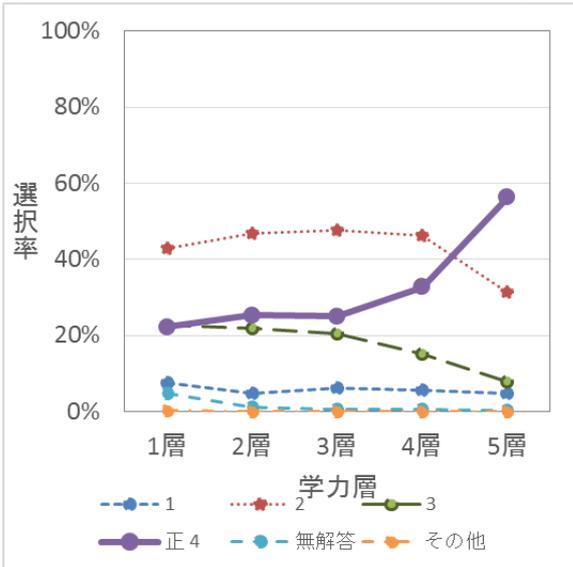
【作成の趣旨】 修飾と被修飾の関係を正しく理解する力が身に付いているかどうかをみる問題である。この問題は、問題文は、修飾語と被修飾語が離れて配置されており、修飾・被修飾の関係を正しく理解していないとわかりにくい。

○ 誤 答 分 析

出題のねらい	1	2	3	④正答	無解答	その他
修飾と被修飾の関係を理解する	5.6%	42.8%	17.2%	32.8%	1.4%	0.1%

正答率は32.8%であり、誤答は選択肢2が42.8%、選択肢3が17.2%、選択肢1が5.6%のような割合で分かれている。無回答率は1.4%で他の問題と比較しても低い。正答率が低く、修飾語、被修飾語の理解に課題があると考えられる。特に、誤答の中で選択肢2（修飾語「校庭で」直後の「サッカーの」を選んでいるもの）が42.8%と多いことから、修飾・被修飾の関係性を理解せずに直後のものを選んだり、「サッカーの」を自分で動詞化して選んだりしていることが考えられる。そのため、修飾語の働きを理解した上で、修飾語と被修飾語との関係に注目させる必要がある。授業では、小単元で扱うだけでなく、定期的な問題に取り組んだり、物語を読む際に、修飾語や被修飾語を探させたりするなど、繰り返しの指導が求められる。今後の指導の中で「修飾語」「被修飾語」という言葉も意図的に使いながら、読むことの他にも、書くこと、話すことの指導の際に活用を図っていくことが大切である。

○ G - P 分析



- 1～3層までの児童は、各選択肢に対する選択率がほとんど同じであり、中位層以下では、この問題への理解の状況に大きな違いがないことがうかがわれる。
- 4層の児童は、選択肢3（シュート）と正答選択肢の違いについて理解しているものの、依然として、選択肢2を選ぶ傾向がある。
- 全体として、修飾語、被修飾語が上位の一部の児童以外、多くの児童に理解されていないことを表しており、日頃の学習の中で修飾語、被修飾語を意識して使用する機会がないことが原因であると考えられる。

○ 指導上の改善ポイント

補充

修飾語の働きについて理解させる指導

【中学年】「文をくわしくしましょう」
主語と述語からなる文に、修飾語を加えて文をくわしくすることで、修飾語の働きに気づかせる。

わたしは おじいちゃんに 手紙を 書きました
【主語】 (だれに) (なにを) 【述語】
花が 咲いた
【主語】 【述語】

「白い」「たくさんの」などをいれると花の様子が思いうかぶね。
「いっせいに」「ひっそりと」で咲き方が変わるね。

○文をくわしくすることに加えてどの言葉をくわしくしているかにも注目させる。

修飾語・被修飾語の関係を定着させるための指導

文節で切った文を示し、まず、主語と述語を確認し、修飾語、被修飾語に注目させ、働きを確認する。

例 まぶしい 太陽が 空から 照りつけていた。

- ①主語と述語だけの文にする。
太陽が 照りつけていた
- ②被修飾語をくわしくしている言葉を探させる。
「どんな太陽ですか？」→ まぶしい
- ③修飾語がくわしくしている言葉を探させる。
「空からはどの言葉をくわしくしていますか？」→照りつけていた

○短い文から取り組ませ、徐々に修飾語と被修飾語が離れた文や修飾語が2つ以上ある文などにも取り組ませる。

○定着を図るために、宿題や朝自習等でも5問程度の問題に取り組ませる。

文の中で修飾語・被修飾語を探す指導

物語などを読むときにくわしくする言葉を確認し、知識の定着を図る。

「下線部の言葉（修飾語）がくわしくしている言葉（被修飾語）はどれでしょう。」

お父さんは、ぼくが机の上に置いた、古くてよごれた本を指さしました。

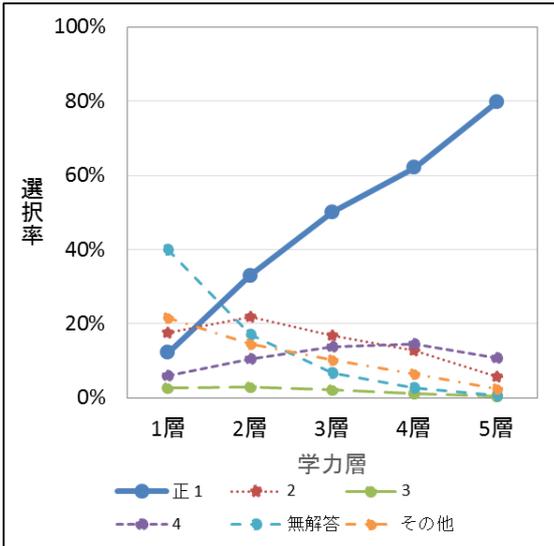
【 】の言葉（被修飾語）をくわしくしている言葉（修飾語）を見つけましょう」

お父さんは、ぼくが机の上に置いた、古くてよごれた本を指さしました。【本を】

- 修飾語と被修飾語の意味のつながりや低学年で学習した主語、述語の関係と修飾語、被修飾語の関係を区別して理解することに注意させる。
- 修飾と被修飾の関係を正しく理解する力を身に付けることで、今後中学校での文の成分の学習や連文節の学習へと結びついていく。

ここがポイント！
学習活動の中で、「修飾語」「被修飾語」という言葉を意識的に使っていく。

○ G - P 分析



- 1層の無解答率は約40%と高い水準になっているが、3層以上では少なくなっている。
- 誤答について、1～3層では二段落構成で書く条件を満たさない児童が多い。一方、5層になると、段落構成の条件はほとんどの児童が満たしているが、理由を書く条件を満たしていない児童は一定割合いる。

○ 指導上の改善ポイント

理由や事例を挙げて書く指導

自分の考えを相手に分かりやすく伝えるために、理由や事例を挙げて述べることは大変効果的である。中学年での既習事項にも、「書こうとすることの中心を明確にし、目的や必要に応じて理由や事例を挙げて書くこと」がある。

児童が理由や事例を挙げて書く力を高めるには、まず、相手意識や目的意識が高まるような状況を設定することが重要となる。さらに、理由や事例を挙げて述べるための表現形式を理解し、使いこなせるように慣れることも重要なこととなる。書き終えたら読み返し、低学年の指導事項である「語と語や文と文との続き方に注意しながら、つながりのある文や文章を書くこと」に気を付けているか、確認する習慣を付けさせたい。

上記のポイントに加え、国語の授業に限らず、「書く活動」を多くの場面に取り入れることが、児童の書く力をさらに高めることにつながる。

ここがポイント！

<指導事例>

「説明に納得？」自分の考えを伝えよう

①説明文の題名となっている内容について、友達と話し合い、自分なりの考えをもつ。

②説明文の内容を読み、説明されている内容や説明の仕方、筆者の考え方をとらえる。

③導入での考えと比べながら、筆者の説明について、納得できるか、自分なりの考えを書く。

④考えた内容を読み合い、友達と交流する。

○ どのようなときに、「大きな力」が出る？

「大きな力を出す」時に大切なことは？等の題名から考えたテーマを設定し、体験とつなげながら話し合う。

○ 考えの選択肢も準備しておき、全員が自分なりの考えがもてるよう配慮する。

○ 二段落で構成し、理由や事例を挙げながら書く形式に慣れるようにする。理由の場合「なぜかという～」、「～のためである」等、事例の場合「例えば～」「～などがあたる」等の表現を使用できるよう指導する。

○ 「私は、筆者の説明に納得できます(納得できません)。に続けて、理由や事例を挙げながら書く。

筆者の説明に納得できます。

なぜかという、運動会でつなひきに取り組んだ時、やっぱり呼吸しながら、力が出せたからです。

筆者の説明に納得できません。

例えば、友達と呼吸を意識した場合としない場合で実験しても、タイムが変わらなかったことがありました。

○ 調 査 問 題



※関連する問題
 平成25年度全国学
 力・学習状況調査
 中学校国語A 8三エ

- | | |
|----------|----------|
| 3
ひく | 1
とめる |
| 4
みはる | 2
まわす |

(1) 田中君の野球の上達ぶりには目を 。

7
 次の文の に入る言葉を、あとの1〜4の中
 からそれぞれ一つ選びましょう。

○ 調査問題の趣旨・内容

慣用句の意味を理解しているかどうかをみる問題

【問題内容】 文中にあてはまる適切な慣用句を選択する。

【作成の趣旨】 この問題は慣用句の意味を理解しているかどうかをみる問題である。この問題のポイントは、慣用句を平易な表現に直した上であてはめ、文章として成立するかどうかを考えることである。慣用句そのものの理解や、慣用句の正しい意味の理解が求められる。

慣用句の意味や使い方を問うことにより、慣用句への興味をもたせ、知識を広げていきたい。またそれを日常生活に生かしていく態度を養っていきたいというねらいで、この問題を作成した。

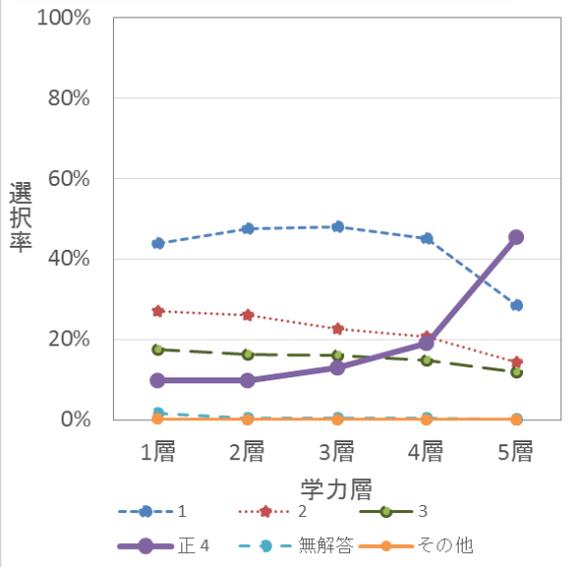
○ 誤 答 分 析

出題のねらい	1	2	3	④正答	無解答	その他
慣用句の意味を理解することができる	42.3%	21.9%	15.1%	20.1%	0.6%	0.0%

正答率は20.1%であり、誤答は、「目をとめる」（選択肢1）が最も多く、それ以外はほぼ同じである。「目をとめる」の意味は、（注目する、興味をもつ）であり、正答に近いことがその要因と考えられる。「目をまわす」（選択肢2）を選んだ児童は、その意味を（驚く）と勘違いしていることが予想される。また、「目をひく」（選択肢3）を選んだ児童は、その意味を（目立っている）と勘違いしていることが予想できる。

いずれにしても、慣用句の正しい意味を理解していないことが課題である。慣用句は日常生活においてなじみが少ないため、日頃から意識して使用させる指導が大切である。

○ G - P 分析



- 1～3層の児童は、それぞれの選択率にあまり差がない。
- しかし、5層の児童は、正答の選択率が急に上がり、選択肢1（目をとめる）と選択率が逆転している。
- これらから、正答につながる知識を有しているのが、能力の高い受検者に偏っていることが分かる。

○ 指導上の改善ポイント

慣用句は、小学校中学年の指導事項である。中学年の教科書では慣用句のみを取り出して、1つの単元として学べるようになっているが、それ以降の教科書で、慣用句に関する単元が登場することは少ない。日常生活において、慣用句が使われることも少なく、指導の機会が少ないのが現状である。学習指導要領を見ると、中学校第3学年の指導事項で、「慣用句」の文言が再び登場し、慣用句に関する知識を広げることが明記されている。6年間のつながりを考えると、初めて学習する小学校中学年が慣用句に関する指導の入り口で、その後、継続的、発展的な指導が求められる。

指導では、慣用句の意味を理解させるだけでなく、実際の言語生活で使えるようにさせることが大切である。そのため、話すこと・聞くこと、読むこと、書くことの全ての領域で、意識的に慣用句に関する指導を行う必要がある。

スピーチによる慣用句の指導

一人一人のスピーチに、必ず1つ、慣用句を入れることを指示する。児童は、スピーチ原稿を作成するために、慣用句を調べ、自分が表現したいことを表す慣用句を探そうとする。もしくは慣用句から、自分の経験を振り返ろうとする児童もいるだろう。慣用句とその意味、自分の経験を結びつける活動によって、慣用句の意味の定着、興味・関心の広がりをもたせられる。

さらに、お互いのスピーチを聞き合うことで、慣用句の意味を知ったり、正しい使い方を確かめたりすることができ、慣用句の使い方についても学ばせることができる。

もちろんこれらは、スピーチに関わらず、慣用句を使った作文でも同様に指導ができる。

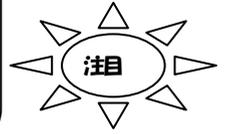
文章中の慣用句に着目させる指導

文章中に意味が分からない語句が出てくれば、すぐに辞書を引かせる習慣を児童につけたい。そのためには手元に常に辞書がある等の環境が必要である。辞書を引くことにより、語彙が増えてくる。これは慣用句にももちろんいえることである。

教材研究で、教材に慣用句を見つけたら、意識的にそれを取り上げ、意味を予想させた後、辞書で引かせる。意味を確認した後、それをういた短文を作る等の継続的な指導で、知識の定着、広がりをもたせられる。

ここがポイント！

- ①話すこと・聞くこと、読むこと、書くことすべての領域で指導をする。
- ②日常的、継続的な指導をする。
- ③意味を理解させるだけでなく、実際の言語活動で使えるようにする。



○ 調査問題

(3) 【アンケート結果】

「アンケート結果」には、「本がばらばらに置いてある」以外にも、学級図書に満足していない理由が書かれています。あなたが解決したい問題を、解答用紙の「学級図書に満足していない理由」から一つ選びましょう。そして、次の「学級図書の問題を解決するためのヒント」をまとめた〈田中さんのノート〉を読んで、問題を解決する方法をあの条件1から条件3にしたがって書きましょう。

〈田中さんのノート〉

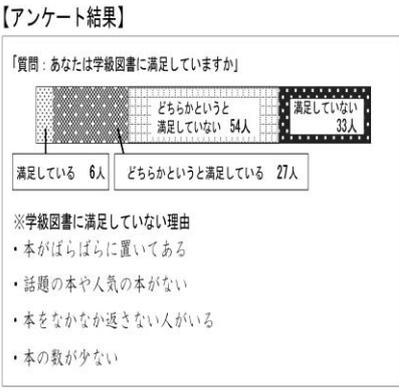
「学級図書の問題を解決するためのヒント」

① 本の学級貸出し (市立図書館)
申し込みをすると、学級単位で、図書館の本を、一ヶ月間に五十さつまで貸し出してくれる。

② 読みたい本アンケート (市立図書館)
利用者に毎月アンケートをとって、どんな本を読みたいか調べている。

③ 貸し出しノート (学校の図書室)
貸し出しのときには、借りた人の名前と借りた日、返す日を必ず記入するという手続きを行っている。

条件1 二段落構成で、六行以上、九行以内で書くこと。
条件2 一段落目には、どの問題を解決したいのか、「学級図書に満足していない理由」から選んで書くこと。
条件3 二段落目には、条件2で選んだ「学級図書に満足していない理由」を解決する方法を、〈田中さんのノート〉の「学級図書の問題を解決するためのヒント」の①②③のどれか一つを参考にして書くこと。その際、選んだヒントの中の言葉を使って書くこと。



12 田中さんのクラスでは、学級図書の利用について、話し合いをしています。次は、その【話し合いの一部】と話し合いのために学年全員にもらった【アンケート結果】です。それらを読んで、あとの問いに答えましょう。

【話し合いの一部】

司会：今日は、学級図書をよりよく利用してもらおうための方法について話し合いしたいと思います。何か意見はありますか。

田中：今のようには本がばらばらに置いてあると、本の名前をさがすのが大変で、読みたい気持ちになりません。

小山：興味がある本をすぐに見つけられるように、整理した方がいいと思います。

司会：どちらも、本をさがすのが大変だという意見ですね。では、どのように整理するかについて、意見のある人はいますか。

福田：わたしは「五十音順」になれば、読みたい本の題名がすぐに見つかると見えます。

中村：わたしは、図かん、物語、科学読み物などの種類ごとに分けて整理すればいいと思います。

森本：森本さんは、福田さんと中村さんの意見を合わせて、発言してくれたんですね。他にありますか。

○ 調査問題の趣旨・内容

「資料を参考に、問題を解決する方法を考えて二段落構成で書く力」が身に付いているかどうかをみる問題

【問題内容】 〈田中さんのノート〉を参考に、学級図書の問題を解決する方法を考えて書く

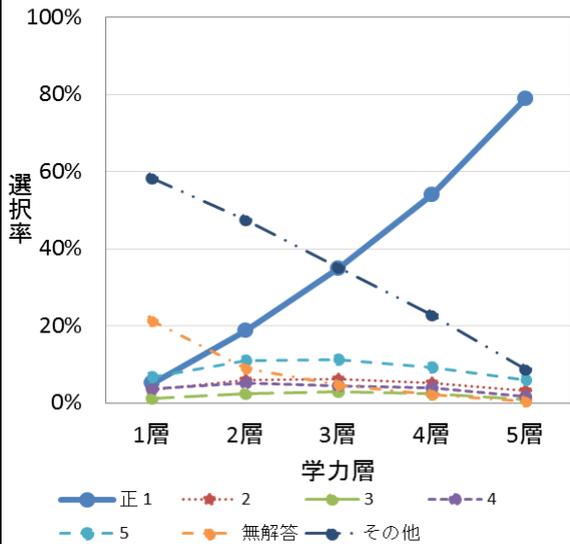
【作成の趣旨】 この問題は、事実と意見を区別して書く力をみる問題である。この問題のポイントは、解決したい〈学級図書に満足していない理由〉を三つの中から選び、その解決策を「学級図書の問題を解決するためのヒント」の中から一つを参考にして書くことである。文章を書く際に、二つの資料から選択するという条件があるために、資料と自分の考えとを照らし合わせながら書きまとめる力が求められる。

○ 誤答分析

解答類型	正答①	2 二段落構成でない	3 行数等の条件不足	4 ヒントを参考にしていない	5 改善方法を書いていない	無解答	その他
出題のねらい							
事実と意見を区別して書くことができる	40.2%	4.8%	2.0%	3.8%	8.8%	7.3%	33.2%

- 誤答で最も多かったのは、問題の設定を理解していないもので（類型その他）、次に改善方法を書いていないもの（類型5）が多かった。
- ・「(一段落) わたしは人気の本がないことを選びました。(二段落) なぜなら、学校の図書館には人気の本がないので、アンケートをとって、人気の本を学校の図書館におけばよい。」→「学校の図書館」の改善について書いている。問題の設定を理解していない例
- ・「(一段落) わたしは本をなかなか返さない人がいるという問題を解決したいです。(二段落) なぜなら、返さない人がいるとその本を借りたい人が読めなくなり、困ると思うからです。」→「満足していない点」に困る点を書いているが、「改善する方法」の記述がない例
- 書く活動に具体的な読み手を設定し、効果的な資料や図表・グラフを選択し、引用する活動を取り入れたい。

○ G - P 分析



- 問題設定を理解していないなど、解答類型その他の児童が相当数の割合を占めている。
- 類型2~4（段落構成、行数、ヒントを参考にする）の解答条件を満たしていない児童は全体的に少ない。ただし、類型その他と判断された児童が相当数いることから、多くの児童が段落構成等の条件を理解できていると即断することは避けたい。

○ 指導上の改善ポイント

事実と意見を区別して書く力を高めるポイント（5年生の意見文を書く活動を通して）

1 書く過程の「課題設定段階」において具体的な読み手を設定する。

- ・学級の枠を越えた具体的な読み手の設定
- ・その読み手がテーマについてどのように考えているかについて事前にアンケート調査をする。
- ・アンケートをもとに読み手を分析し、読み手に応じた取材活動を絞り込む。

中学年での「話題選定段階」における、アンケートやインタビュー調査の経験を生かす。

- 具体的な読み手は、地域や家庭との連携を図りながら設定することが必要となるが、時間や連絡調整を踏まえて、校内の隣の学級や、1学年下の学年など、無理なく設定するとよい。
- 何を書くのか（取材するのか）という「課題設定段階」で、アンケート調査をもとにした具体的な読み手を分析する時間を設定することで、限られた時間に効果的な取材活動につなげることができる。

2 読み手に自分の意見を伝えるのに効果的な資料や図表・グラフを選択し、引用する。

- ・文章を引用する場合
→ 引用する部分を「 」でくくる。
- ・図表を用いる場合
→ 本文に「図1は、～」といった表現を用いる。

- どのような引用をするのがよいのか、図表やグラフのいずれを用いるのがよいのかなどを考える習慣を付けることが重要である。

実際に読み手からの感想をもらうことで、「書いてよかった。」「また書いてみたい。」という、書くことへの達成感を味わわせたい。

3 国語の授業に限らず、「書く活動」を多くの場面に取り入れる。

- 算数や社会科、理科の授業において言語活動の充実を図る。
 - ・算数 → 問題に対する見通しや考え方を文章でまとめる活動、自分の誤答についての分析を文章でまとめる活動
 - ・社会 → グラフや多くの資料をもとに、課題を見つけて自分の考えを書きまとめる活動
 - ・理科 → 実験や観察において、仮説や実験結果を自分の言葉でまとめる活動

○ 調 査 問 題

(1) 右の文章中の「ねらった」^①は、述語です。「ねらった」に対する主語を、文章中より書きぬきなさい。

(丘^{おか} 修三^{しゅうざう}『紅鯉^{べんい}』による。)

(丘^{おか} 修三^{しゅうざう}『紅鯉^{べんい}』による。)

2

の文章を読んで、次の問いに答えなさい。

○ 調査問題の趣旨・内容

「文の構成を理解する力」が身に付いているかどうかをみる問題

【問題内容】 述語に対する主語を書き抜く。

【作成の趣旨】 この問題は、主語と述語の関係を問う問題である。一文から見つける問題ではなく、短い文章の中から主述を見つける応用問題となっている。登場人物の行動や場面の様子を読み取るための核となる事項である。

主語と述語の関係は低学年の指導事項としてその学習が始まるが、学年が上がるにつれて主述関係の理解が定着しているかどうかを把握するために、この問題を作成した。

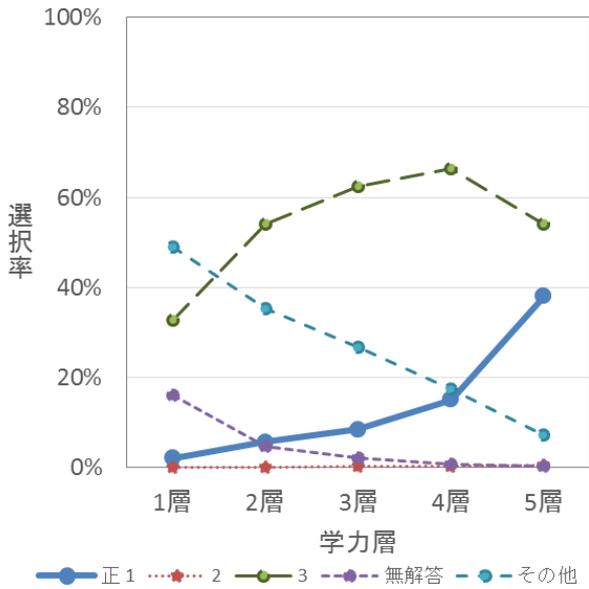
○ 誤 答 分 析

解答類型 出題のねらい	①正答	2 「ぼく」と解答	3 「フナやナマズ」と解答	無解答	その他
	文の構成を理解することができる	15.4%	0.2%	54.3%	4.5%

正答率は15%であり、他の問題と比較してかなり低い。誤答の多くが「フナやナマズ」であり、述語「ねらった」に対する主語ではなく、「ねらった」に対する目的語を書き抜いている。また、「ねらった」に対する主語「ぼくは」が述語から離れている上、「ねらった」の直前に「フナやナマズ」があることも、誤答を誘引する原因となっている。

依然として、動作の主体を表すものが主語であるということの理解に課題が残されている。主語と述語の照応関係については、下学年で学んだことの定着が図られず、意識して活動できていないため、6年間を通して、計画的に、そして継続的に指導することが求められる。

○ G - P 分析



- どの層でも同様に類型3の「フナやナマズ」と誤答する生徒が最も多い。
- 特に1～3層では、類型3とその他の解答類型を併せると、90%以上を占め、一方、正答を選択した生徒は10%に満たない。これは、動作の主体を表すものが主語であるということの理解がほとんど定着していないことをうかがわせる。

○ 指導上の改善ポイント

主語と述語の照応関係については、〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕における指導として、時間を設定して取り組ませる必要がある。また、下学年で学んだことの定着が図られず、意識して活動できていないため、習得した知識や技能を他の三領域の学習においても計画的・継続的に指導することが求められる。

前年度までの学習内容を生徒と共に確認しながら、授業を展開することができれば、6年間を通じて、確実に、そして系統的に指導することができる。

以下に他の三領域の中から、「読むこと」と「書くこと」の学習の中で取り組むことができる活用例を挙げた。主語と述語の照応関係の理解が、文章の内容を理解するのに役立つことや的確に書くことにつながるようになることを認識させ、確実な定着を図りたい。

文章中の述語に着目させる読みの指導

文章の中での主語と述語の関係をつめる際に、まず「述語」は（何か）をつめてから、その「述語」に応じた「主語」を読み取るという発想〔動作の主体〕の読み取り指導。

《例文》

本文からの抜粋

また、次のような文例を使つての指導も効果的である。

《例文》今朝、母を連れて車で駅に向かった。

述語「向かった」に対する主語は見当たらない。文法上はないが、文脈上の主語は前後の文章を読むことで捉えることができる。

そして、倒置法によって表現された文章を活用すると、主語と述語の関係はよりの確に把握することができる。

《例文》すごい、あんな難しい曲を演奏できるお姉さんは。

主語と述語に着目させて要約文を書く指導

中心となる主語や述語を文章中から見つけることで、適切な要約文を書く指導。

《例文》

本文からの抜粋

- Step1 文章中の主語を取り出し、中心となる主語を見つける。
- Step2 文章中の述語を取り出し、中心となる述語を見つける。
- Step3 中心となる言葉や修飾語を取り出し、新たな一文（要約文）を作る。

《例》

- | | |
|-------|---------|
| Step1 | 本文からの抜粋 |
| Step2 | 本文からの抜粋 |
| Step3 | 本文からの抜粋 |

※関連する問題
平成26年度全国学
力・学習状況調査
中学校国語B 1三

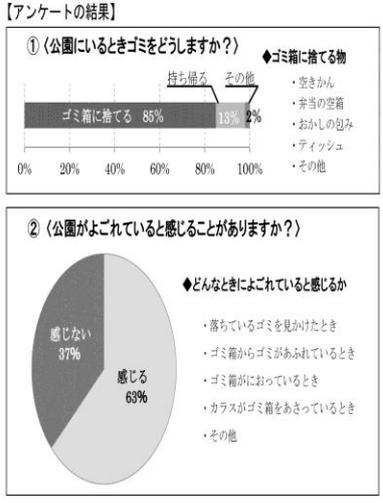


○ 調査問題

(3) あなたは「公園のゴミ箱をなくす」ことに賛成しますか、反対しますか。あなたの立場を明確にして、その理由をあとの条件1から条件3にしたがって書きなさい。

条件1 二段落構成で、六行以上、九行以内で書くこと。
条件2 一段落目には、「公園のゴミ箱をなくす」ことに賛成なのか反対なのかを書くこと。
条件3 二段落目には、賛成または反対する理由を、【アンケートの結果】のグラフの内容にふれながら書くこと。

※ 解答は必ず解答用紙に書きなさい。次のページの原稿用紙は使っても使わなくてもかまいません。



【話し合いの一部】

司会 今日公園の使い方について話し合いたいと思います。何か意見のある人はありますか。

野村 私はこの前公園で、「来年から公園のゴミ箱をなくします」というポスターを見つけた。私はゴミ箱がないと思う。ゴミ箱はなくなさないほうがいいと思います。

野村 なぜゴミ箱がないと思うのですか。(理由)

司会 このアンケート結果を見てください。(理由)

野村 だから、ゴミ箱はあったほうがいいと思います。今の野村さんの意見に対して意見のある人はいますか。

山本 ほくは公園のゴミ箱はなくなしたほうがいいと思います。なぜそう思うのですか。

司会 このアンケートの結果を見ると、「理由」ということがわかります。だから、ゴミ箱はなくなしたほうがいいと思います。

10

田中さんたちのクラスでは、公園のゴミ箱について話し合っています。次は、「話し合いの一部」と、田中さんが公園のゴミ箱について、クラス全員に取った【アンケートの結果】です。これらを読んで、あとの問いに答えなさい。

○ 調査問題の趣旨・内容

「根拠を用いて自分の意見を明確に書く力」が身に付いているかどうかをみる問題

【問題内容】 「公園のゴミ箱をなくす」ことについて、賛成か反対かの立場を明らかにして、自分の意見を二段落構成で書く。

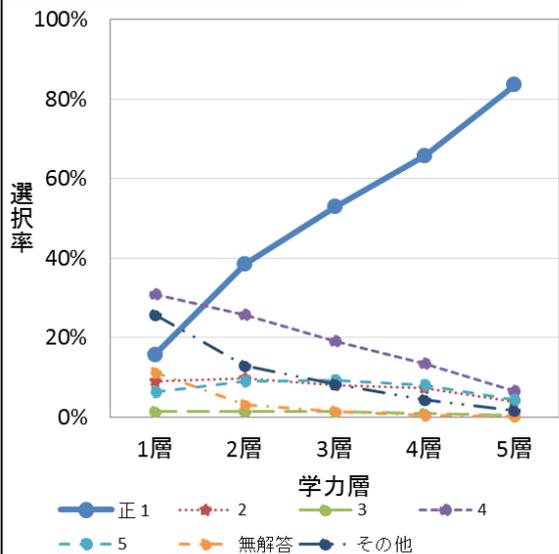
【作成の趣旨】 この問題は、話し合いについてまとめられた資料をもとに、自分の意見を持ち、3つの条件を踏まえてグラフを利用して理由をまとめる問題である。この問題のポイントは、「条件3 二段落目には、賛成または反対する理由を、【アンケートの結果】のグラフの内容にふれながら書くこと。」にしたがって、グラフの内容を根拠に自分の理由を述べられるかであり、情報を活用する力が求められる。また、「条件1 二段落構成で、六行以上、九行以内で書くこと。」という制限の中で、どのグラフのどこを活用すればよいのか取捨選択させ、いかに自分の意見に説得力をもたせて伝えられるかが大切であり、表現する力も求められている。

○ 誤答分析

解答類型	正答①	2 二段落構成でない	3 行数等の条件不足	4 グラフにふれてない	5 賛否の理由がない	無解答	その他
出題のねらい 根拠を用いて自分の意見を明確に書くことができる	53.6%	7.3%	1.0%	18.1%	7.2%	3.0%	9.8%

- 誤答のうち、最も多かったのは類型4であり18.1%に上った。
 - ・「(第一段落) 私は、公園のゴミ箱を無くすことは反対です。(第二段落) アンケートの結果を見ると、公園でゴミを捨てる人がいるということがわかります。このことから私はゴミ箱はあったほうがいいと思います。」→グラフの読み取り結果の記述として不十分
- 設問の設定を理解していない等、類型その他の解答が9.8%と一定程度の割合を占めている。
 - ・「公園にごみがない方がいいと思います。」→ゴミ箱の有無という設問の設定を理解していない。

○ G - P 分析



- 学力層が上がるほど、類型4（グラフの内容にふれながら書く）を満たすことができている生徒が増えている。
- 設問の設定を理解していない等、類型その他の生徒は、1～3層で10%以上を占めるが、4層以上では少なくなっている。

○ 指導上の改善ポイント

○ 理由を明確にして自分の考えをまとめる（書く・話す）指導

中学年の「書こうとすることの中心を明確にし、目的や必要に応じて理由や事例をあげて書くこと」に触れ、高学年では、「自分の考えをまとめる→ペアに発表する→ペアからの質問を受け、答える→自分の考えを再度まとめ直す」といった一連の活動時間をしっかりと確保することで、「引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書く」力を付けていく。

指導事例 【公園のゴミ箱をなくす】ことについての意見文を書こう】

まず、自分の立場を明確にしたうえで、その理由も合わせて伝えられるようにし、ノートなどに書かせる。その後、隣の席の友だちなどのペアに発表する取組を行うようにする。

わたしは、公園のゴミ箱をなくすことに賛成です。理由は、ゴミ箱の周りが汚れていることがよくあるからです。

ゴミ箱をなくすと、公園全体が汚れませんか。

グラフからもわかるように、多くの人は公園ではゴミ箱にゴミを捨てるということです。ゴミ箱があるからゴミ箱に捨てるのであって、ゴミ箱がなければみんなゴミは持ち帰るようになると思います。

その際、聞き手となる人は、一つは質問するようにさせ、その答えを踏まえて、相手に自分の考えを伝える。ペアとの発表を踏まえて、再度自分の考えをノートなどに書かせる。

また、国語の授業に限らず、「書く活動」を多くの場面に取り入れることが大切である。

ここがポイント！

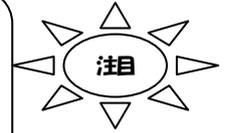
自分の考えを書かせるだけでなく、ペアの友だちに発表することで相手を意識させることができる。また、ペアの友だちから質問をしてもらうことで自分の考えを深めることができる。

また、よく書けたものについては、全体で取り上げることで、広めることができる。

○他の教科等の指導との関連

国語の学習だけでなく、他教科等の学習においても、図表やグラフ、写真などの資料について、何の資料なのか資料からわかることを、各自がじっくりと考え、ノートに書く時間をとる。

自分の考えをもったうえで、友だちの発表を聞き、自分では気付かなかった考えに触れて、考えを広げたり、深めたりすることができる。



○ 調 査 問 題

9

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

（こまごまの話）

お団子のようにこんもりと東ねた（アスタイル）が祖母の走番だ。小学生の私（ひびし）は、祖母をすみれちゃんと呼んでいる。ある日、すみれちゃんは、台風で風箱から逃げてしまった親鳥に代わって、鳥の卵を自分のお団子卵の髪の毛の中で、私と一緒に育てることになった。週末になっても卵は卵のままだ。けれども、すみれちゃんは、相変わらず卵を温めている。

（小川糸『リボン』による）

（小川糸『リボン』による）

※1 転卵：人工飼育の際、卵を時々動かすこと。

※2 クライマックス：最高潮

※3 ワット数：（この場合は蛍光灯の）明るさを表す単位。

(3) 「そんなことができるの？」とありますが、そんなことはどんなことですか。「を確認すること」に続くように、次の文の□にあてはまる言葉を本文中から、十字以上、二十字以内で書き抜きなさい。

を確認すること。

10

20

○ 調査問題の趣旨・内容

「登場人物の言動や心情の理由を読み取る」力が身に付いているかみる問題

【問題内容】 大問9（3）は、登場人物の言動の理由を読み取り、適切な内容を本文中から探し、「～を確認すること。」という語句に続くように10字以上、20字以内で書き抜き問題である。

【作成の趣旨】 この問題は、登場人物の言動の理由や場面の中心部分を適切に読み取ることができるかをみる問題である。この問題のポイントは、前後の文脈や場面から登場人物の言動や心情の理由を整理して読み取り、解答の条件に合わせて解答する力が求められる。

○ 誤 答 分 析

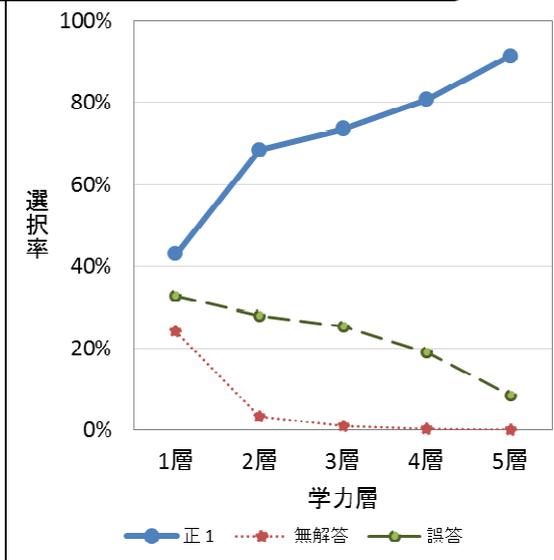
出題のねらい	正答	誤答	無解答
場面の中心を読み取ることができる	72.4%	22.1%	5.5%

大問9は、登場人物の言動や場面の中心を読む力をみることをねらいとしている。読み取った内容を選択肢で解答する小問では正答率も高く、誤答も少ない。しかし、記述式で答える小問3では正答率こそ低くはないものの、さまざまな誤答がみられた。

誤答例としては、「語句が抜け落ちてしまっている」「語順を変えてしまっている」「本文の内容を自分で言い換えてしまっている」「適切な字数で解答していない」などである。

このことから、内容を正確に読み取るだけでなく、前後の文脈から要旨を整理しながらとらえ、適切な表現で解答する力の向上が求められると考えられる。

○ G - P 分析



- 大問9のうち(1)及び(4)は選択肢で解答する形式で、2層においても高い正答率がみられる。
- 本問((3))は、全体の正答率は72.4%を示すが、4層でも約20%が誤答している。解答式が「あてはまる言葉を本文中から、10字以上、20字以内で書き抜きなさい」という形で出題され、読み取った内容と問題文の記述を対応させ、さらに条件に合わせて解答しなければならなかったためと考えられる。

○ 指導上の改善ポイント

表現に着目し、内容の理解を深める指導

- 作品に書かれた描写や表現から、登場人物の心情や作者の意図を総合的にとらえる。
- ①登場人物についての特徴ある表現や主人公の心情が表わされた語句に傍線を引き、ノートに書き出す。
- ②複数の語句や表現から、作品の中で登場人物の心情や作者の意図がどのように描写されているかノートにまとめる。その際には、どの表現から読み取ったのか、理由と根拠を示しながらまとめる。
- ③それぞれの登場人物の人柄や作者の意図について自分の意見や感想を交流させ、作品理解を深める。

取組例 『字のない葉書』 向田邦子

「こそばゆいような、晴れがましい気持ちになった」

〔こそばゆい〕 くすぐったい / 照れくさい

〔晴れがましい〕 表立ってはいはなやかである

／ 表立っていきまりがわるい

→ ここでは「照れくさいが、大人として扱ってもらっているような気持ち」だと思う。二面性のある父親から手紙もらったので、二つの気持ちが出てきたのではないだろうか。「晴れがましい」という語句が後なので、うれしい気持ちが強いのだと思う。

ここがポイント!

- ・ 注目した語句の辞書的な意味と、文脈上での使われ方と比較させながら、語義を把握させる。
- ・ 3年間の物語作品を扱うなかで「表現メモ」など共通の枠組みで継続的に取り組むことにより、言葉に対する意識を高め、表現への理解を深める。

要旨を整理して捉え、場面に応じた適切に表現する指導

- 小学生に向けて自校を紹介するパンフレット(学校説明会などで実際に配布する)を作る。
- ①事前に様々なパンフレットを集め、その工夫やアイデアを見つける場面を設定する。
- ②伝えたい内容を決め、紙面構成を考える。
- ③選択した自校の魅力について、資料を用いながら小学生に分かりやすい文章を書く。
- ④グループ間で情報の異同や改善点について話し合い、推敲する。

発展

ここがポイント!

- ・ 主語・述語の関係に配慮し、修飾部が長くないように一文を構成する。
- ・ 伝えたい事柄と付加的な部分とのバランスや伝えたい内容の順番と構成に配慮する。

※関連する問題

平成26年度全国学

力・学習状況調査

中学校国語B 1三

注

○ 調査問題

〈発表原稿〉

狭山茶について

① 埼玉県の特産品である狭山茶の起源は古く、鎌倉時代までさかのぼります。八百年以上の長い間作り続けられているというところは、埼玉県がお茶の生産に適した土地だということなのでしょう。

② お茶の木は水はけがよい土地、雨が多い土地を好みます。また、暖かい土地では生長が早く、何度もお茶の葉をむくことができます。

③ 狭山茶の産地である埼玉県西部は、水はけがよく、雨も多く降ります。その点ではお茶の栽培に適した土地だと言えるでしょう。

④ ただし、埼玉県は

【第四段落】

⑤ こうして作られた狭山茶は、濃厚でコクのある味で人々に愛され、埼玉県を代表する特産品になっています。

インタビューの一部

上原： 狭山茶について教えてください。よろしくお願いします。

石田： はい、お願いします。

上原： ……ア

石田： ……ア

上原： それから今まで、ずっと作り続けられているのですか。

石田： 戦乱の時代に一度は作られなくなりましたが、江戸時代に復興し、それからずっと作り続けられています。幕末に横浜が開港してからは、お茶は重要な輸出品にもなりました。

上原： 長い間作り続けられるということは、埼玉県は茶の生産に適しているということですか。

石田： お茶の木は、水はけがよく雨の多い土地を好みます。そして暖かい土地では生長が早いので、何度もお茶の葉をむくことができ、たくさん収穫することができます。狭山茶の産地、埼玉県西部は、火山灰が降り積もってきた土地なので水はけがよく、雨も多いので、茶の栽培に良い条件なんです。

上原： では、埼玉県はお茶の生産にびびりたりない土地なんですか。

石田： はい、ただそこには、生産者の工夫や努力もあります。

〜インタビューは続く〜

11 上原さんは、埼玉県の特産品である「狭山茶」について深く知るために、茶葉研究所の石田さんにインタビューをしました。上原さんの「インタビューの一部」を読んで、あとの問いに答えなさい。

④ 狭山茶を作るうえでの工夫・努力

埼玉県は他の茶産地より北に位置しており、それらの産地に比べ寒い。

茶の葉をつむ回数は年2回（鹿児島県は年5回）

・寒さに強い品種に改良
・寒さにきたえられた肉厚な茶葉をいかず茶作り

③ 埼玉県が茶栽培に適している点

ア、水はけ

狭山茶の産地、埼玉県西部は、火山灰が降り積もってきた水はけのよい土地である。

イ、雨の量

埼玉県西部は雨が多い。

① 狭山茶の歴史

埼玉県の特産品、狭山茶

鎌倉時代から800年以上作り続けられている。

② 茶の木の好む土地

ア、水はけがよい土地

イ、雨が多い土地

ウ、暖かい土地

(3) 上原さんは、狭山茶についてインタビューして分かったことをまとめたカードを作りました。このカードを使ってクラスで発表する時の「発表原稿」を書こうと思います。これをもとに「発表原稿の第四段落」を、次の条件1から条件3に従って書きなさい。

条件1 六行以上、九行以内で書くこと。

条件2 「ただし、埼玉県は」に続くように、また、④段落に続くように書くこと。

条件3 「寒い」「茶の葉をつむ回数」の二つの言葉も、両方とも使って書くこと。

○ 調査問題の趣旨・内容

「集めた材料をもとに、段落の役割を考えて文章を構成する」力が身に付いているかをみる問題

【問題内容】 インタビューの内容をまとめたカードをもとに、発表原稿を完成させる。

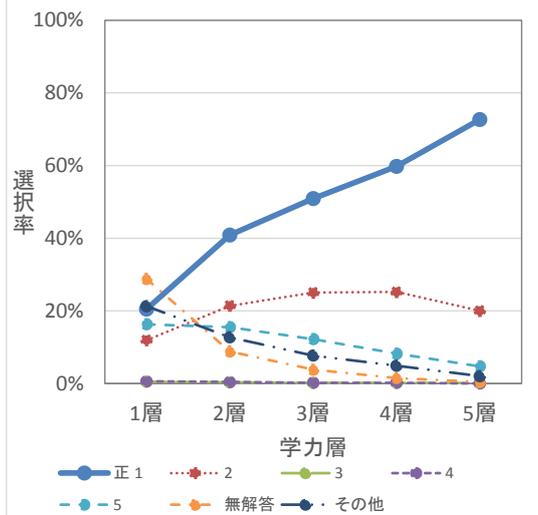
【作成の趣旨】 この問題は資料を適切に引用し、伝えたい事実を明確にして書くことができるかどうかをみる問題である。この問題のポイントは、発表原稿の第四段落の冒頭にある「ただし」という接続詞に着目し、第四段落には、狭山茶を栽培するうえでの欠点とそれを克服するための工夫がまとめられていなければならないことに気付く必要がある。そのうえで、(カード)の中から、必要な情報が書いてあるものを探して引用し、条件に従って、第四段落を完成させるというねらいで、この問題を作成した。

○ 誤答分析

解答類型	1	2	3	4	5	無解答	その他
出題のねらい	正答①	条件3を満たさない	条件1を満たさない	条件1,3を満たさない	条件2を満たさない		
資料を適切に引用し、伝えたい事実を明確にして書くことができる。	50.6%	20.8%	0.3%	0.3%	10.9%	8.0%	9.2%

- 正答率が50.6%にとどまり、無答率が8%と課題が残る。
- 解答類型2のように「指定語句を正しく使っていない」割合が高い。「寒い」を「寒く」として書いていたり、「茶の葉を摘む回数」を「茶を摘む回数」として書いていたりするものがある。
- その他の誤答傾向として、「情報を取り出すことはできているが、原因と結果が整合しない文章を書いている」がある。「茶の葉を摘む回数が2回」というハンドが「寒さに強い品種に改良した」や「寒さにきたえられた肉厚な茶葉をいかず茶づくり」という工夫の結果になっている例がある。

○ G - P 分析



- 1～5層で共通して、類型2の指定語句を正しく使っていない解答が20%程度あり、学力層による違いはあまり大きくない点が特徴的である。
- 無解答率は、1層では30%近いものの、3層以上では5%未満とかなり少なくなっている。

○ 指導上の改善ポイント

資料を基に根拠を明確にして書く指導

資料を適切かつ効果的に引用し、根拠を明確にして書く力を付けるためには、目的意識や相手意識を具体的に設定し、かつ生徒が意欲的に取り組むような課題を設定することがポイントとなる。この問題のように「話すこと・聞くこと」の学習課題と関連させたり、「読むこと」の課題と関連させた課題を設定したりすることも効果的である。相手によく伝わる文章にするためには、複数の事例や専門的な立場からの知見を示すことが必要となってくる。中学年の「書くこと」の中心を明確にし、目的や、必要に応じて理由や事例を挙げて書くこと、高学年の「引用したり、図表やグラフを用いたりして、自分の考えが伝わるように書くこと」をふまえながら、資料を適切に選択し活用する力を身に付けさせたい。

【指導事例】

「国宝 歎喜院聖天堂」のパンフレットをつくろう！

(地域の名所・特産物パンフレットを作ろう！)

- ①パンフレットに載せる内容を考える。
*対象は下学年 学校行事等と関連させた課題
- ②正式なパンフレットやホームページ等の資料を分析し、どの資料をどのように引用するかを吟味する。
- ③紹介文(パンフレットの主になる部分)を書く。
- ④レイアウトや見出しを考える。
- ⑤書いた文章を推敲する。グループで交流。
- ⑥清書、完成したものは下級生に活用してもらう。

ここがポイント！

○単元を通しての学習のゴールを設定する。指導事項を指導するのにふさわしいか。生徒が意欲的に取り組むような課題であるかがポイント。

○作成の目的に合ったパンフレットにするには、どうしたらよいかを話し合わせる。観点を示して、話し合いをさせることがポイント。

言語活動を通して指導事項を指導する

(言語活動例) 1年 (イ) 図表などを用いた説明や記録の文章を書くこと。

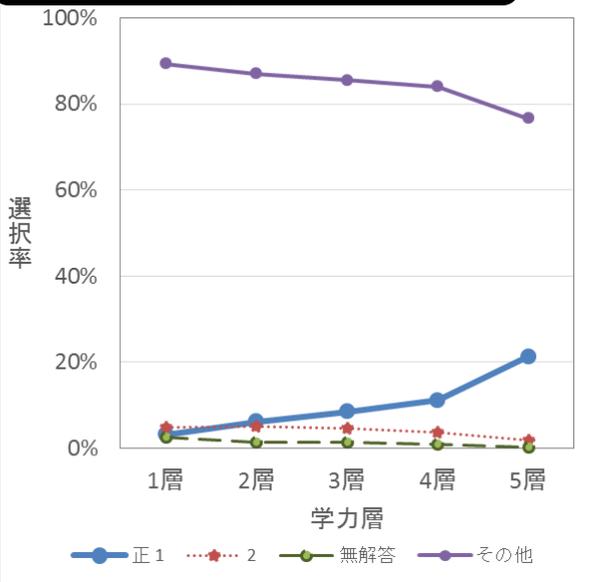


(指導事項) 1年 ウ 伝えたい事実や事柄について、自分の考えや気持ちを根拠を明確にして書くこと。

他の教科等の指導との関連

国語の授業に限らず「書く活動」を多く取り入れる。理科や社会などのレポート作成や、総合的な学習の時間の発表などに関連させた課題設定ができるとよい。レポートをリライトする言語活動も考えられる。

○ G - P 分析



- 正答を選択できた生徒は1層で約3%、5層でも約21%、また、その他の誤答の割合は1層で約84%、5層でも約76%と、いずれも大きな差はない。
- さらに、誤答の中でも、活用の種類が同じ動詞を選択できたの(類型2) はいずれの学力層でも低い。
- 以上のことから、動詞の活用の種類についての理解が低いことは否めないであろう。どの層においても難解な問題であったといえる。

○ 指導上の改善ポイント

基礎知識の指導

- (1) 小学校高学年から品詞名の指導をする。
- (2) 中学1年生から年間計画の中に文法の指導を位置付け、計画的に指導する。
- (3) 活用の種類についての基礎知識を、活用表を作成しながら指導し、その特徴に気付かせる。

◆活用語尾が次のような特徴になる動詞。

【五段活用】 五十音図の五段に活用する。

【上二段活用】 // イ段だけに活用する。

【下二段活用】 // エ段だけに活用する。

【カ行変格活用】 // カ行だけで特別な活用をする。

【サ行変格活用】 // サ行だけで特別な活用をする。

◆可能動詞の理解とその活用(下二段活用)。

【例】「試せる」「読める」「泳げる」「飲める」 等

※「試す」「読む」「泳ぐ」「飲む」との違いを理解させる。

- (4) 一つの動詞を活用させた短文をいくつも作りながら、その特徴や活用形を理解させていく。

【例】「読む」 ◇私は本を読みます。 ◇説明書を読めばよく分かる。 ◇同じ本を何度も読んでみる。

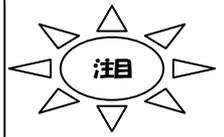
する	来る	捨てる	起きる	ある	基本形
(す)	来	捨	起	あ	語幹
せし さ	こ	て	き	ろら	未然形
し	き	て	き	つり	連用形
する	くる	てる	きる	る	終止形
する	くる	てる	きる	る	連体形
すれ	くれ	てれ	きれ	れ	仮定形
せよ しろ	こい	てよ れろ	きよ きろ	れ	命令形
サ行変格活用	カ行変格活用	下二段活用	上二段活用	五段活用	活用の種類

紛らわしい品詞の理解

- (1) 「ある」を使った短文をいくつも作らせ、その違いに気付かせる。
 - ① ◇私の家には車とバイクがある。 ◇私の家には車とバイクがあります。【動詞】
※活用し、終止形が「-る」とウ段の音で終わる。
 - ② ◇これがAとBとの違いである。 ◇これがAとBとの違いであろう。【補助動詞】
※①と違って、「存在のある、なし」の意味を失い、補助の役割となっている。
 - ③ ◇彼と私はある人を訪ねた。 ◇私はある仮説を立てた。【連体詞】
※活用せず、体言を修飾する。
- (2) 授業の中で紛らわしい単語が出てきたときに、その特徴に触れるようにする。

※関連する問題

平成25年度全国学力・学習状況調査
中学校国語B 3一ウ



○ 調査問題

13 次は、満員電車でベビーカーを乗せることについて書かれた二つの投書を読んで、安田さんが書いた【発表スピーチの原稿】について、新聞を読んで、あとの問いに答えなさい。

【発表スピーチの原稿】
満員電車でベビーカーを乗せることについて、新聞に二つの投書記事が掲載されていました。一つは、毎朝、満員電車を利用して通勤している人の投書です。ベビーカーが場所をふさいでしまうと、電車が揺れた時や人に押された時に、ベビーカーの上に倒れそうになり、乗っている人やベビーカーに座っている子供に危険があるというものです。
もう一方は、子供の母親からの投書です。赤ちゃんを抱いたり小さな子供と手をつないで満員電車に乗ったりすると、満員の人たちにつぶされそうになって危険なので、ベビーカーは必要だというものでした。
前者の意見には「ベビーカーを乗せると子供にとっても危険だ」、後者の意見には「ベビーカーを使わないと子供にとって危険だ」とあり、どちらも子供の安全を考えているようでした。

(3) 【発表スピーチの原稿】を読んで、あなたならどのように解決するのがよいと思いますか。次の【安田さんが考えたアイデア】から取り入れるアイデアを一つ選びなさい。(どのアイデアを選んでもいいません)そして、〈解決策とその理由〉を、あとの条件1から条件3に従って書きなさい。

【安田さんが考えたアイデア】

- ① ベビーカー専用ゾーンの設置(特定の車両にベビーカー専用ゾーンを設置する)
- ② ベビーカーを使用する人の時間差出勤(混雑する時間をさけた出勤)
- ③ 幼稚園や保育所の増設(電車で遠くの育児施設に通わなくて済むようにする)

- 条件1 二段落で、六行以上、九行以内で書くこと。
- 条件2 一段落目には、【安田さんが考えたアイデア】のうちどのアイデアを選んだのかを書くこと。
- 条件3 二段落目には、「子供」「満員電車」「危険」という言葉をすべて使って、その理由を書くこと。

○ 調査問題の趣旨・内容

「根拠を明確にして自分の意見を書く力」が身に付いているかどうかをみる問題

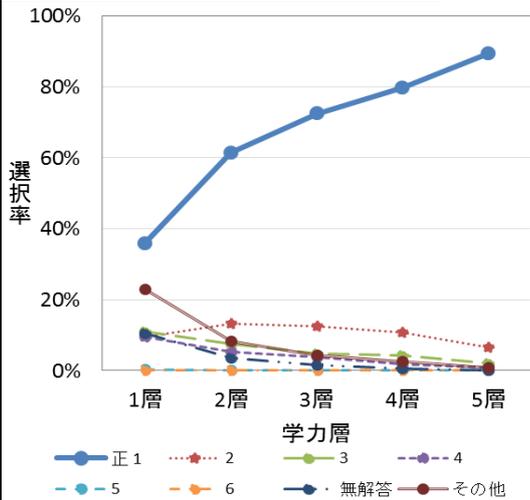
- 【問題内容】 問題の解決策を1つ選び、それを選んだ理由を二段落構成で書く。
- 【作成の趣旨】 根拠を明確にし、自分の意見との整合性ができているかどうかを書くことをとおしてみる問題である。この問題のポイントは、選んだ解決策の根拠とその理由を具体的に示すことであり、また、条件にある3つの言葉をすべて使うことにより、説得力のある文章を構成する力が求められる。相手に対し、自分の意見が効果的に伝わる文章を書く力を付けるというねらいで、この問題を作成した。

○ 誤答分析

解答類型	2	3	4	5	6	無解答	その他
出題のねらい	条件3を満たさない	2段落構成でない	行数等の条件不足	条件2を満たさない	アイデアを選んだ理由の記述不足		
効果的な文章を書くことができる	69.1%	10.3%	5.7%	4.1%	0.1%	0.2%	3.1%

- 正解率が、69.1%であり、他の記述問題と比べ、やや高くなっている。
- 誤答傾向の1つに、「指定語句が適切に書けていない」がある。「子供」「危険」「満員電車」と書くべきところを、「小供」「危検」「満員の電車」となっている。問題文の読み取りが浅いことが考えられる。国語の最後の設問であり、時間配分の指導も必要である。
- そのほかの誤答として、「アイデアを選んだ理由を書き、アイデア自体を書いていない」、「選ばなかったアイデアについてしか書いていない」というものがみられた。条件の行数で、まとめる力が必要となる。物事を簡潔明瞭に表現する指導が必要である。

○ G - P 分析



- 無解答率は、1層においても約10%で、他学年の記述問題に比較すれば少なくなっている。
- 「3つの言葉を全て使って書く」条件を満たさない解答は、学力層に関わらず、同じくらいの割合を占めている。

○ 指導上の改善ポイント

発展

構成を工夫した文章を書く指導

中1の「段落の役割を考えて文章を構成すること」を受けて、中2では、自分がどのように考えているかという、立場を明確に表明する部分を、文章全体の、どこに位置付けることが適切であるかを考えながら書くことが、文章を構成する上で大切である。そこで、新聞の投書欄を活用し、構成を工夫した意見文を書く指導を行う。

〈例〉【新聞の投書に対する意見文を書こう】

T：「投書で使われているキーワードを使って
意見文を書こう」

キーワード

- ・複数回、使われている言葉に注目。
- ・中心文から探してみる。
- ・何度も読み返し、心に残った言葉。

投書で使われているキーワードは何か。

ここがポイント！

- ①投書に対して、賛否や解決方法など自分の立場や伝えたい事実を明確にさせる。
- ②立場を表明する部分によって、「頭括型」「尾括型」「双括型」といった構成を考えさせる。
- ③生徒同士で、作品を読み合い、伝えたい事実や事柄が、明確かどうか確かめさせる。

相手に効果的に伝わる、条件に沿った文章を書く指導

中1の「根拠を明確にして書くこと」を受けて、中2では、「具体的な記述によって、描写を工夫すること」が大切である。そこで、段落構成や行数、必ず使用する言葉などの条件を定めた、作文指導を繰り返すことを通して、事実や事柄、意見や心情が相手に効果的に伝わる文章を書く指導をする。また、国語の授業に限らず「書く活動」を多くの場面で取り入れることも効果的である。

〈例〉【登場人物の心情を読み取る】

T：「レントウの唇が動いたが、
声にならなかったのはなぜか」

「喜び」「寂しさ」「うやうやしい態度」の3語を使おう。

・原稿用紙の使い方も確認しよう。

ここがポイント！

- ①条件に示されている言葉を正しく引用（抜き出し）させる。
- ②文学的な文章、説明文や随筆など様々な種類の文章を基にして、文章を書かせる。
- ③分かりやすい説明や具体例を加えたり、表現しようとする内容にもっともふさわしい語句を選んで描写を工夫したりさせる。

